

同志社大学グローバル地域文化学部設置の趣旨

1. グローバル地域文化学部設置の趣旨

1-1 設置の趣旨及び必要性

同志社大学は、米国での勉学と知見を通して近代日本における教育の重要性を確信した校祖、新島襄が1875年に設立した同志社英学校にその基礎を置いている。爾来137年にわたり、一国の良心となる人物の育成という建学の精神のもと、本学はキリスト教主義、自由主義、国際主義を教育理念として掲げ、わが国のみならず世界で活躍できる人材を育て上げてきた。特に近来、教育理念のひとつである国際主義は、グローバル化の進展と共にいよいよその先見性が評価され、平成21年度には文部科学省が推進する大学の国際化プロジェクトである国際化拠点整備事業（グローバル30）に採択された。これは、今後同志社大学がさらなる国際化を推し進め、多数の留学生の受け入れと在学生の海外への送り出しに一層の努力と成果を期待されていることの証であると共に、グローバル化の一方で混迷を深める世界で活躍できる人材を育成するという重責を担っていることをも示している。

本学の国際主義とは、国際社会に対応できる語学力と、異文化の価値観を受け入れることのできる幅広い人間性を涵養し、日本国内にとどまらず世界を舞台に高い倫理観に基づいて行動する人材の育成を謳うものである。本学の教育理念であるこの国際主義の伝統を現在に受け継ぐということは、グローバル化する世界の中にただ埋没するのではなく、世界の様々な地域の特殊性を理解しつつ、その特殊性を相対化することのできる人物、自国に対してもそのような公平な視点を有し、日本や日本の文化を海外に向けて発信できる人物を育てていくことに他ならない。その観点からして、英語とそれ以外の外国語を幅広く習得し、実践的な外国語能力によって様々な地域の文化を正しく理解し、グローバルな観点から活躍できる人材を育成することに特化した新学部を開設することは、21世紀を迎えた本学にとって大いに意義ある教育目標である。この認識の上に、グローバル地域文化学部の設置が構想された。

この新学部構想の背景としては、平成25年度に予定されている既存の文系学部1・2年次生の京田辺校地から今出川校地への移転という本学の教学組織上の大きな変化を挙げることができる。従来本学では、学生が所属しない教育研究組織である「言語文化教育研究センター」が全学の外国語教育や国際教養教育を担ってきた。平成20年3月、この「言語文化教育研究センター」を平成25年度の組織上の大転換を機に発展的に解消し、平成23年4月にはまず京田辺校地に、平成25年4月には今出川校地に、2つの新学部を設置すること、これら2つの学部が学部教育を行いつつ全学の外国語教育にも携わり、もって本学の国際主義教育の一層の強化を図るという決定がなされた。これを受けて、平成23年4月に京田辺校地に「外国語の実践的・実用的運用能力に卓越した人材」を育成する「グローバル・コミュニケーション学部」が発足しており、今回新設する「グローバル地域文化学部」は、平成25年4月に今出川校地に設置予定の学部に対応する。

今出川校地に新設する本学部は、「国際的な地域理解能力を持つ人材」、すなわち、各種の言語圏の地域文化の形成と多様性を中心に据えて探求しつつ、さらにそれぞれの地域が抱える特殊な問題や、また地球規模で抱える様々な課題にグローバルな視点をもって取り

組める学生の育成を目的とする。本学部は、本学の「国際主義」を世界の地域文化研究に特化した形で深化・発展させるとともに、外国語能力に優れ、国際的教養を有し、日本と諸外国との相互理解・連携に寄与できる人物を育てることをその設置の趣旨とするものである。

企業の採用担当者に対して行った本学部への期待度調査（インターネット、郵送により調査。依頼数 1,000 社、回答数 386 社）でも、本学部の社会的必要性は、「とても必要だと思う」（12.7%）、「ある程度必要だと思う」（52.7%）を合わせると、回答のあった 386 社中 251 社（約 65%）の企業が認めており、本学部の人材養成に魅力を感じる項目として、「複数の高度な語学力の習得」（45.3%）、「国際的な視野の習得」（37.7%）と高い期待が伺える。また、本学部で学生が身に付ける力として、「自分で問題を発見する力」（68.7%）、「自分自身の意見を人前で発表する力」（61.7%）、「外国語で会話する力」（55.3%）等が評価されており、卒業生の採用については、「採用してみたい」、「採用を検討してみたい」を合わせると 386 社中 260 社（67.3%）と高い採用意欲が示された。このことは、本学部が養成しようとする人材が経済社会が期待する人材像にマッチしており、180 名の定員を設定した入学者の進路の確保も問題ないことを示していると考えられる。

一方、同時に行った高校生へのインターネット調査（標本数 300 人、うち 4 年制大学進学希望者 86.2%）でも、本学部に「とても興味・関心を持った」、「ある程度興味・関心を持った」を合わせると 59%、「ぜひ入学したい」、「受験してみたい」、「受験を検討してみたい」を合わせると 41% になり、本学部への高い関心が伺える。本学部での学びに期待する項目としては、「複数の語学力の習得」（56.6%）、「海外研修」（43.3%）が高校生の関心を強く惹いている。コース別の興味・関心度では、ヨーロッパコース 62.5%、アジア・太平洋コース 45.7%、アメリカコース 50.5%の高校生が興味を示している。

本学部の入学定員は 180 名であり、募集人数はコース毎に、ヨーロッパコース 70 名、アジア・太平洋コース 60 名、アメリカコース 50 名に設定している。この募集人数は、本学部が外国語教育を重視していること、最低 1 回の海外研修を義務付けていること、海外インターンシップを設置していることなどから、各コースで募集人数を少人数に設定することにより、個々の学生によりきめ細やかな指導を行うためのものであり、上記の調査による高校生の本学部への期待にも応え、かつ毎年優秀な入学者を充分確保できるものと考えられる。

1 - 2 人材養成の目的及び教育研究上の目的

進行するグローバル化の中で政治的・経済的関係は複雑化し、人の移動や文化交流はますます活発化してきている。そのような世界状況の中で、経済社会は外国語能力に秀で、グローバルな視点を持って、グローバルに活躍できる人材を求めている。流動する世界に生起する諸現象を、それぞれの地域文化への知見と洞察力がないまま理解することは不可能である。したがって、本学部では、地域の有する豊かな文化的多様性と特質を理解し、同時にグローバルな観点から地域の諸相を捉えられる人物の育成を目指す。主要な 3 つの地域文化として、ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカに特化した専門的理解に加え、「グローバル」な視点から各地域の諸問題を見る眼を養うことで、現代の文化摩擦や文化変容を多面的に捉える思考を養成するのである。それゆえ、本学部の人材養成の目的は、

3つの諸地域における文化の歴史的背景や現状を正確に理解しつつ、グローバル社会に対応できる幅広い教養をもって、グローバル社会で活躍できる人材の育成にある。このような、本学部の人材養成目的は、現代社会が求める人材像にも合致しており、卒業後は商社、製造会社等の企業、国際交流に関わる国内機関、国際機関（NPO・NGOを含む）、国内外の大学院への進学等が想定される。

1 - 3 組織として研究対象とする学問分野

1 - 2 で挙げた教育研究上の目的を達成するため、

- (1) ヨーロッパ、アジア・太平洋、南北アメリカの、各地域文化の形成や、地域相互の人、モノ、思想の交流、各地域が現在直面する諸問題、各地域間に発生する摩擦や対立といった現象の分析を主として人文科学的アプローチで行う地域研究学
- (2) 具体的な地域の研究を通じてグローバルな諸問題の解決に取り組むグローバル地域文化学

上記2項目を組織として研究対象とする学問分野とする。

2 . 学部の特徴

本学部は、中央教育審議会答申で提示されている大学の7機能のうち、「幅広い職業人養成」と「総合的教養教育」を重点的に担うものである。全学の外国語教育と国際教養教育に長年にわたって携わってきた言語文化教育研究センターの教員集団を擁する本学部は、この2つの機能を果たすのにこれ以上ないほどの強力な教育体制を敷くことが可能である。具体的には、「国際的な地域理解能力」の基盤となる外国語教育と、多様な視点からの地域理解を可能にする講義科目群を展開することによって、社会に通用する実践的スキルに裏打ちされた、国際社会に対するバランスのとれた教養を学生に教授できる。

本学部は、1学科3コース制を採り、「ヨーロッパ」、「アジア・太平洋」、「南北アメリカ」の諸地域をカバーする地域研究を行う。3つのコースの名称はそれぞれ「ヨーロッパコース」、「アジア・太平洋コース」、「アメリカコース」とし、入学者には、それぞれのコースの教育課程で必要とされる外国語の学習を義務付ける。

3つのコースを設定し、入学後の早い時期から各コースが研究対象とする諸地域の言語・文化に親しませることは、本学部の教育課程の大きな特色であるが、このことは、それぞれのコースの研究対象地域の事象のみを学習させる、専門化された狭隘な視点からの教育を意味するものでない。そもそも3つのコースが取り扱う3地域は、それぞれ独自の文化と社会を形成している一方、互いに影響を及ぼし合いながら発展してきたことを忘れてはならない。個々の地域の歴史過程と諸問題等を理解するためには、それぞれの地域に対して総合的、横断的にアプローチできるグローバルな視点が不可欠なのである。一方で、現代のようにグローバル化の著しい社会を理解するためには、逆にグローバルな視点だけではなく、これらの各地域を専攻する地域文化研究が重要な意味を持つことも事実である。各地域は世界の中に位置づけられて意味を持ち、世界は各地域の交流の中に成立している。両者は並列するものでもなければ対立するものでもなく、重層的に重なり合っている。学生がこのような重層性を理解するために、本学部では、特定の地域に根差して学ぶとともに、グローバルな事象についても学べる体制を整える。これは、1地域の言語・文化・歴

史を深く追究する過程を通じてこそ、学生はグローバルな諸問題に取り組むことができるようになる、という本学部の教育理念の現れであると同時に、旧来とは異なる視点からの地域文化研究として、新たに「グローバル地域文化学」を学部名に冠した本学部の大きな特色である。

3. 学部・学科の名称及び学位の名称

学部名称： グローバル地域文化学部

英語名称： Faculty of Global and Regional Studies

学科名称： グローバル地域文化学科

英語名称： Department of Global and Regional Studies

ヨーロッパ、アジア・太平洋、アメリカという3地域の文化・社会について体系的に理解を深めるとともに、地域横断的な問題をグローバルな視点から分析することで、それぞれの地域を重層的に把握する専門知識を養い、21世紀の国際舞台で活躍できる人材の育成を目的とする本学部・学科の名称として、グローバル地域文化学部グローバル地域文化学科、英語名称を Faculty of Global and Regional Studies とする。この「global (グローバル)」という冠称によって、既存の「グローバル・スタディーズ研究科(大学院)」、「グローバル・コミュニケーション学部」とともに、Global Score (Study, Communication, Regional = 総譜)の形成による同志社大学のグローバル・トライアングル(3G)を強調する効果が生まれ、ひいては同志社大学の国際化プロジェクトを強化して、日本の大学に求められているグローバル化に貢献できると考える。

学 位： 学士(グローバル地域文化学)

英語名称： Bachelor of Global and Regional Studies

世界各地域の文化・社会の諸相を重層的かつグローバルな視点から把握する高度な専門知識を有し、その地域の言語運用能力を有する人材に相応しい学士名称として、学士(グローバル地域文化学)とする。

4. 教育課程の編成の考え方及び特色

本学部のカリキュラムの基本方針は、世界の諸地域が抱える現代的問題を、それぞれの地域文化の「歴史的形成」、「文化的多様性」そして「地域と地球規模の課題」という3つの側面から総合的に理解する力を学生に修得させることにある。この基本方針に基づき、本学部1学科3コースの教育課程は、必修科目(講義・ゼミ等)、選択必修科目A群(グローバル・イシュー科目群)、選択必修科目B群(スタディ・アブロード科目群)、選択必修科目C群(外国語関連科目群)、選択科目A群(地域文化研究科目群、実践科目群)、選択科目B群(地域文化研究隣接科目群)、選択科目C群(免許・資格関連科目、全学共通教養教育科目等)等で編成する。

上記基本方針を実質的なものとするために、まず、必修科目として設置する初年次教育科目(「グローバル地域文化論」、「グローバル・スタディーズ論」の2つの講義科目と「グローバル地域文化導入セミナー」)においてきめ細かい学習指導を行うと共に、初年次から

複数の外国語の集中的な履修を義務付け、地域文化をグローバルな視野から体系的に学ぶという本学部における学修のための基礎を培う。また2年次においては、2つの必修講義科目（「グローバル地域文化入門」、「グローバル地域文化の基礎」）を履修させることにより、学生が専攻しようとする地域の文化や社会についての確実な知識、地域研究の方法論を身に付けさせると共に、現在それらの地域が抱えている諸問題に対してグローバルな視点からアプローチする姿勢を次第に涵養していき、後期に用意されている「グローバル地域文化入門セミナー」においてこの過程をサポートする。こうした基礎教育が、それぞれの地域文化の「歴史的形成」、「文化的多様性」、「地域と地球規模の課題」を扱う2・3・4年次の講義科目（「選択科目A群、選択科目B群」）の履修に、有機的にそしてスムーズに連動されて行くことは、本学部のカリキュラム編成の中核部分だと言える。本学部講義科目のコア部分である「選択科目A群（地域文化研究科目群）」のうち、「地域文化の形成」、「地域文化の多様性」を扱う人文科学的アプローチの科目群では、導入、基礎、発展という学習の階段を意識した編成をする一方で、「地域と地球規模の課題」を扱う社会科学のアプローチの科目群については、現代世界が直面している諸課題を並列的に配置する。加えて、この「選択科目A群」だけでは扱いきれない、政治、経済、法律、国際関係等のより社会科学性格の強い科目については、別に「選択科目B群」を設け、学生の知見が偏らないように配慮する。併せて学生は、地域横断的なイシューを扱う科目「選択必修科目A群（グローバル・イシュー科目群）」の諸科目を履修することによって、自らが専門とする地域の文化や問題を、その地域の内側からの視線だけではなく、外側からのグローバルな視線で見るとを体得していくことになる。中から外へのこの視点の移動が1回きりのものに終わらず、絶えず反復されるようになることが理想である。なお、学生の学習意欲を最大限に尊重するために、これら選択科目の配置バランスも十分に考慮している。単に一定の地域の言語や文化に通じただけの人材ではなく、それらの地域文化に対するグローバルな視点からのアプローチができる人材の育成という本学部の目的からすれば、この科目群の設置は本学部のカリキュラム編成上欠くことのできないものであり、それゆえこの科目群は「選択必修」科目としている。

このような形で特定地域の言語、文化、またそれらの地域が抱える様々な問題について意識的かつ主体的に考える能力を付けてきた学生たちは、それぞれのコースの中に3・4年次必修科目として置かれるゼミ（「グローバル地域文化発展セミナー」、「グローバル地域文化専門セミナー」）において、自らの課題を見出し、資料を集め、分析し、発表するという学問的訓練を経て、個々の卒業論文へと結実させていく。

本学部では導入教育と共に外国語教育も集中的に行う。外国語教育科目は全て「選択必修科目C群（外国語関連科目群）」としてまとめており、地域に対する理解を深めるための基礎的スキルとして位置付け、英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、インドネシア語、トルコ語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語、カナダ圏フランス語等、本学部の冠称である「グローバル」の名に恥じないメニューを揃える。学生は、英語以外に他の外国語を最低1つは学習し、実践的な言語運用能力の向上に努める。その際、本学部の母体であった「言語文化教育研究センター」での教育実践の積み重ねが有効に機能することは言うまでもない。さらに、本学部では「選択必修科目B群（スタディ・アブロード科目群）」を用意し、様々な行き先、期間の海外留学科目をここ

に置く。「選択必修」としていることから分かるように、本学部の学生全員に、卒業までに最低一度は海外留学体験をさせることが目的であり、海外体験を通して実用的な外国語能力を向上させるとともに、異文化のただ中に自ら身を置くことによって、当該地域の問題及びグローバルな諸問題を深く理解することに資する科目群としてカリキュラム全体の中に位置付けている。さらにこの留学体験を、同志社大学が提供する交換留学制度の積極的活用、長期の海外留学へとつなげていくことによって、外国語資料を厳密かつ批判的に読み解く力、地域文化研究に必要な語学力を一層発展させるための第一歩として位置付けることもできる。また、この科目群には「スタディ・ツアー」のように、各地域へのフィールドワークや、実地体験に基づく地域文化研究の深化につなげるための科目も含まれている。各コースのカリキュラム系統図を資料として添付する（資料1、資料2、資料3）。

なお、教養教育科目は選択科目C群にまとめ、全学共通教養教育科目、他学部設置科目、免許資格関係科目、大学コンソーシアム京都単位互換科目、同志社女子大学単位互換科目から16単位以上を履修するものとし、専門領域以外の幅広い教養を学修させる。

5. 教員組織の編成の考え方及び特色

本学部の教員組織は、既設の言語文化教育研究センターに所属している英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語担当教員の移籍を中心に組織し、学部教育と全学外国語教育という2つの教育的使命を担う。移籍する教員は各言語の教育に従事するとともに、歴史領域においては東洋思想史、近代朝鮮史、中国女性史、アメリカ史、ラテンアメリカ女性史、社会・文化領域においては社会学、国際政治論、比較政治学、比較教育学、文化研究、表象分析、文学等を専門研究領域とし、上記使命を十分に果たす能力を有している。また、既存の他学部と連携しつつ、外国語クラスの合理的編成や教育能力の高い嘱託講師の確保、指導、監督を引き続き強化するように、組織的な取組を行う。

この2つの教育的使命を果たすため、本学部の専任教員52人の構成は、主として学部教育を担当する教員17人（ヨーロッパコース6人、アジア・太平洋コース6人、アメリカコース5人）、主として全学的な外国語教育を担当する教員34人（英語15人、ドイツ語4人、フランス語4人、中国語3人、スペイン語4人、ロシア語2人、コリア語2人）とする。また、免許資格課程センター所属教員1人も移籍し、教職課程科目を担当する。さらに、本学の独立研究科であるグローバル・スタディーズ研究科教員の協力も得る。

主として学部教育を担当する教員の年齢構成は、いずれのコースにおいても、若手からベテランまでバランスの取れた年齢構成となっており（開設時に、ヨーロッパコースは30歳台2人、40歳台2人、50歳台2人、アジア太平洋コースは30歳台2人、40歳台3人、50歳台1人、アメリカコースは30歳台1人、40歳台2人、50歳台2人）、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障が生じることはない。また、主として学部教育を担当する教員17人中15人は日、英、米、仏各国で博士学位を取得しており、他の2人も修士学位を取得している。このように言語における実践的教育のみならず、各言語圏の社会的・文化的背景をも学修させる教育課程に即し、それに相応しい人材を配置し、これらの教員が必修科目のセミナー等の中心的な科目を担当する。

本学部の専任教員52人のうち、英語は6人がネイティブ教員であり、ドイツ語、フラン

ス語、スペイン語、ロシア語では各 1 人、中国語は 2 人、コリア語は 3 人がネイティブ教員である。よって学部所属のネイティブ教員は 15 人となる。ネイティブ教員が本学部の教員組織に占める割合は 29% であり、その比率の高さは本学部の特色でもある。

全学の外国語教育に対処するため、教員の一部は今出川校地と京田辺校地での授業担当が想定されるが、京田辺校地での授業は週 1 回に収まるように時間割配当上配慮する。このため、2 校地間の移動による教員の負担は最小限に抑えられ、学生の指導にも支障は生じない。

6 . 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

6 - 1 教育方法及び履修方法

本学部のカリキュラムが具体的に目指すのは、学生が、1) 各地域文化の形成や、地域相互の人、モノ、思想等の交流関係を分析し、2) 各地域が現在直面する社会や文化の諸問題、各地域間に発生する交流、摩擦、対立といった現象を包括的に理解したうえで、3) 各地域と日本との社会的・文化的交流の将来を考えることを通して、各地域から世界へ、そして日本へ（さらに日本から各地域へ、日本から世界へ）地域の視点とグローバルな視点を往復できるようにすることであり、また同時に、地域文化研究に不可欠なスキルとしての実践的な外国語能力を身に付けられるようにすることである。この目標を実現するための本学部における学生の学習過程を詳細に述べれば、以下のようになる。

まず 1 年次必修科目として前期に「グローバル地域文化論」を履修させる。各コースの専任教員によるオムニバス形式による講義で、地域文化に対するグローバルなアプローチの基礎を学ばせ、これをさらに「グローバル地域文化導入セミナー」という初年次教育を兼ねた演習科目で補強する。後期には、これも必修科目として「グローバル・スタディーズ論」を履修させ、地域横断的な考え方に触れさせる。また、「選択必修科目 C 群（外国語関連科目群）」の中から、英語（「イングリッシュ・プラクティクム」、「ブレ・イングリッシュ・プラクティクム」、「コミュニケーション・イングリッシュ」、「アナリティカル・リーディング」等）と、他に 1 つの外国語（ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語、インドネシア語、トルコ語、ポルトガル語、アラビア語、イタリア語、カナダ圏フランス語）を選択させ、英語については運用能力のさらなる向上を図り、それ以外の外国語については集中的に発音と文法構造を学習させる。

2 年次以降は「選択科目 A 群（地域文化研究科目群）」、「選択科目 B 群（地域文化研究隣接科目群）」が本格的に開講されることにより、学生は自らが専門とする地域の言語、文化、社会について、それぞれの興味において知見を広げていくことができる。また、「選択必修科目 A 群（グローバル・イシュー科目群）」を履修することによって、各人が専門とする地域のことしか分からないという視野の狭さに陥ることなく、グローバルな視点と問題意識を形成していくことができる。一方で、学生の学習が無秩序に拡散することを防ぐために、必修科目として「グローバル地域文化入門」（前期）と「グローバル地域文化の基礎」（後期）の 2 つの講義科目を 3 つのコースそれぞれに置き、「地域文化学」の意味を学ばせる。これをさらに「グローバル地域文化入門セミナー」（後期）という演習科目により補強し、少人数の演習形式で地域文化の特色を学ばせる。地域の個別的特徴を尊重しつつも、グローバルな文脈の中で捉え直させる点が 2 年次の教育課程の特色である。「選択必修科目 C 群

(外国語関連科目群)」からは、英語(「イングリッシュ・プラクティクム」₁「プレ・イングリッシュ・プラクティクム」)に加え、「アカデミック・イングリッシュ」₁「プロフェッショナル・イングリッシュ」₁「イングリッシュ・ワークショップ」₁「イングリッシュ・セミナー」等)と1年次に選択したもう1つの外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、コリア語は「インテンシヴ」₁または「イタリア語中級」₁、地域文化理解のためのイタリア語2₁「地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/アラビア語/ポルトガル語3・4」₁「地域文化理解のためのフランス語(カナダ)1・2」)を継続して履修させ、英語については運用能力のさらなる向上を図り、それ以外の外国語については着実な知識のもとに実践的な運用能力の涵養へと進んでいく。

3年次においては、2年次同様の選択必修、選択科目の講義履修により、個々の地域文化、地域文化間の諸問題、グローバルな視点から見た場合の諸地域の問題等について知識を深めつつ、「グローバル地域文化発展セミナー」₁(前期・後期)でそれぞれの地域における特殊な領域を学び、一方で自らの研究テーマを絞り込んでいく。学生には1・2年次で学んだ地域についての知識を批判的かつ複眼的観点から捉え直し、自ら問題を見出していく作業が求められる。資料収集やフィールドワーク等においては、それまでに蓄積された外国語能力が十二分に発揮されることになる。「選択必修科目C群(外国語関連科目群)」の中からは、英語(「言語文化研究」₁「現代地域事情・上級講読」₁「アカデミック・イングリッシュ」₁「プロフェッショナル・イングリッシュ」等)と、1年次に選択したもうひとつの外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、コリア語の「インテンシヴ」₁)と、ロシア語も含めて「文化事情」₁「表現法」₁「言語文化原典演習」₁「現代地域事情・上級講読」または「地域文化理解のためのイタリア語3」₁「地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/アラビア語/ポルトガル語5」)を履修させる。

4年次には、2・3年次同様の多様な講義履修により、個々の地域文化、地域文化間の諸問題、グローバルな視点から見た場合の諸地域の問題等について一層知識を深めることが可能であるが、最終年次の必修科目として「グローバル地域文化専門セミナー」₁(前期・後期)を履修させる。自ら選択したテーマに学生が主体的に関わり、調査、資料収集、資料分析といった学問的手続きを経験し、さらにゼミ発表という形でプレゼンテーション能力をも涵養する科目である。専攻地域と他地域との関わりを学生に改めて認識させることもこの科目の重要な目的である。このセミナーでの発表を発展させ、卒業論文にまとめさせることで、本学部の基本的な教育課程は完結する。

なお、本学部の全ての学生は、在学中に最低一度は海外留学プログラムに参加しなければならない。そのため、「選択必修科目C群(外国語関連科目群)」とは別に、「選択必修科目B群(スタディ・アブロード科目群)」という科目群を設置する。この科目群には、目的、行き先と研修期間が様々に異なる海外留学プログラム(サマープログラム、スプリングプログラム、セメスタープログラム、スタディ・ツアー、海外インターンシップ)が科目として含まれており、学生は自らの専門、興味、学習計画に応じて、これらのプログラムから自由に選択することができる(スタディ・ツアーのみは「グローバル地域文化発展セミナー」₁「グローバル地域文化専門セミナー」₁との連動科目)。国際主義を教育理念のひとつとして掲げる本学部に設置する「スタディ・アブロード科目群」は、グローバル人材養成を謳う本学部の学生たちには、学部教育の間にぜひ自国以外の生の文化に接

してもらいたいという思いの現れであると共に、頓に内向き志向が指摘される現代の若者たちが、急速なグローバル化を遂げている現代社会で活躍するためには、学生時代の海外経験が不可欠であるという本学部の認識が具体的な形をとったものである。

6 - 2 卒業要件

各コースとも卒業に必要な単位数は共通で下表のとおりである。

学部必修科目	グローバル地域文化論、グローバル・スタディーズ論、 グローバル地域文化入門、グローバル地域文化の基礎、 グローバル地域文化導入セミナー、 グローバル地域文化入門セミナー、 グローバル地域文化発展セミナー、 グローバル地域文化発展セミナー、 グローバル地域文化専門セミナー、 グローバル地域文化専門セミナー、 卒業論文	28単位
選択必修科目 A 群 (グローバル・イシュー科目群)	グローバル・イシュー科目群から3科目以上	6単位 以上
選択必修科目 B 群 (スタディ・アプロード科目群)	スタディ・アプロード・プログラム	1単位
選択必修科目 C 群 (外国語関連科目群)	選択必修科目 B 群から履修した単位が2単位以上の場合は、1単位は選択必修科目 B 群の単位に、残りの単位は選択必修科目 C 群の単位に充当する。	24単位 以上
選択科目 A 群	地域文化研究科目群(自コース科目から10単位以上履修) 実践科目群	20単位 以上
選択科目 B 群	地域文化研究隣接科目群	
選択科目 C 群	全学共通教養教育科目、他学部設置科目 等	16単位 以上
合計		124単位 以上

6 - 3 CAP制について

本学部では、学生に4年間にわたるバランスのとれた学習をさせるために、登録上限単位は、各学期 22 単位とする。

6 - 4 履修モデル

在学時からのキャリア形成を視野に入れ、卒業後の進路を想定した履修モデルケースを提示する。

(1) 国際交流を推進する地方自治体 (観光開発、姉妹都市交流、外国人居住者のケア)
において活躍できる人材育成のためのモデルケース

アメリカコースを卒業後、地方自治体等の国際交流に係わる非営利事業のプログラム策定やその調整・実施等の分野において活躍できる人材となるため、必修科目に加え、選択必修科目 A 群と選択科目 A 群、B 群から歴史、社会と文化の多様性、移民問題等の社会的課題に関連する科目を中心に履修し、選択必修科目 C 群からは英語とスペイン語を中心に外国語関連科目を履修して仕事に活用できる語学力を養う。選択科目 C 群からは、政治学、法学、倫理学等に加え、本学の建学の精神と教育理念を学び、キャリア開発を意識するための科目を選択して履修する。(資料 4 参照)

(2) グローバルに展開する民間企業 (中国に進出する企業等) において活躍できる人材育成のためのモデルケース

アジア・太平洋コースを卒業後、グローバルに展開する民間企業等ビジネス関連分野において活躍できる人材となるため、必修科目に加え、選択必修科目 A 群と選択科目 A 群、B 群から歴史、社会と文化や、グローバル化、地域紛争、環境問題等、現代的問題に関連する科目を中心に履修し、選択必修科目 C 群からは英語・中国語の外国語関連科目を履修してグローバルに活躍できる語学力を養う。選択科目 C 群からは、倫理学、国際教養基礎論等に加え、本学の建学の精神と教育理念を学び、キャリア開発を意識させるための科目を選択して履修する。(資料 5 参照)

(3) グローバルに展開する民間企業 (旅行社、商社、文化交流関連企業等) において活躍できる人材育成のためのモデルコース

ヨーロッパコースを卒業後、グローバルに展開する旅行社、商社、芸術系エージェントといった分野の企業において活躍できる人材となるため、必修科目に加え、選択必修科目 A 群と選択科目 A 群、B 群から歴史、芸術文化、異文化交流、自然と地理、環境問題、グローバル化等に関連する科目を中心に履修し、選択必修科目 C 群からは英語・ドイツ語の外国語科目を履修して仕事に必要な語学力を養う。選択科目 C 群からは、法学、政治学、国際教養基礎論等に加え、本学の建学の精神と教育理念を学び、キャリア開発を意識させるための科目を選択して履修する。(資料 6 参照)

(4) グローバルな非営利組織 (NPO) ないし非政府組織 (NGO) において活躍できる人材育成のためのモデルケース

アメリカコースで英語を第一外国語として履修し、卒業後、人権問題や環境問題に携わる NPO や NGO 等で活躍できる人材となるため、必修科目に加え、選択必修科目 A 群からは社会開発、紛争抑止等に関する科目を、選択科目 A 群、B 群からは、南北アメリカのみならず、世界の諸地域の文化の多様性やマイノリティの問題を扱う科目を中心に履修する。選択科目 C 群からは、法学等に加え、本学の建学の精神と教育理念を学び、キャリア開発を意識するための科目として履修する。選択必修科目 C 群からは、英語の上級科目を中心に履修し、第二外国語としてのスペイン語は、インテンシヴによって、基礎的な実用性を身に付けさせる。(資料 7 参照)

7. 施設、設備等の整備計画

7-1 校地、運動場の整備計画

本学は平成 25 年度からは、京田辺校地は「身体・生命・先端技術、情報」を中心とした教育を行う校地、今出川校地は「人文科学、社会科学」を中心とした教育を行う校地として再編・整備を行っている。今出川校地には「良心館」と「志高館」と命名する 2 つの教育・研究棟を新築中であり、本学部は「志高館」を拠点として開設する。この再編・整備と新棟建築が相まって、本学部は、「人文科学、社会科学」を中心とした今出川校地の教育研究体制の一環としてその機能を発揮できると考える。

本学部は、本学の創立以来の拠点である今出川校地に新たに取得した土地に新築する「志高館」に、拠点を置く。世界に知られた国際都市“Kyoto”であると同時に「大学の町」でもある京都の中心部に位置し、その知的集積の中に拠点を置くことによって本学部の国際社会への訴求力は存分に発揮され、第一の教育目的である世界諸地域への理解と国際性の涵養が可能となる。

体育施設に関しては、今出川校地に近接する新町校地に 929 m²の体育館があり、屋内競技を行うことができる。京田辺校地には、体育館、野球場等を含む充実した体育施設があり、正課・課外活動の両面で有効活用している。デイヴィス記念館と称する体育館は 1 階に 2,855 m²のメインアリーナ、地階にはトレーニングルーム (560 m²) 体力測定室が一体になった体力科学センターをはじめ、4 つの競技場 (377 m²~502 m²) を有し、関西地区でもトップクラスの規模を誇っている。その他、京田辺校地には、全学共通で使用する硬式野球場 (21,000 m²)、軟式野球場 (11,600 m²)、陸上競技場 (25,600 m²)、サッカー・アメリカンフットボール場 (19,400 m²)、テニスコート (12 面)、ゴルフ練習場 (5,000 m²)、陸上ホッケー場 (7,000 m²) 等の体育施設が整備されている。本学部においても、選択科目 C 群の全学共通教養教育科目の保健体育科目等で屋外競技を希望する学生は、これらの施設を使用するが、学生の時間割選択肢は広いので、校地間移動に問題はない。

7-2 校舎

本学部の授業に必要な教室数は、前期、後期の平均で 1 週当たり演習系教室 54 室、講義室 110 室、語学系教室 55 室であり、添付した本学部の時間割によれば、1 講時あたりの最大授業数は 15 である。本学部の基本的施設・設備は、今出川校地将来構想に従い、延床面積 16,539 m²の「志高館」を主に使用するが、教室・演習室は全学共用施設であり、今出川校地の他の講義棟の教室・演習室 (計 225 室) も使用するため、授業には十分な教室を確保している。想定される時間割表を資料 8-1~10 に示す。

「志高館」の各階に配置する主な施設・設備は次のとおりである。

- ・地階：教室、演習室、メディア演習室、情報 (CALL) 教室、学生自習室、学生ラウンジ、学生用 PC コーナー、書庫、印刷室
- ・1 階：教室、面談ブース、事務室、学部長室、会議室、講師控室、印刷室
- ・2 階：個人研究室、共同研究室、演習室、資料室
- ・3 階：個人研究室、共同研究室、教員ラウンジ、資料室

上記施設のうち、本学部の教育目標、人材養成の目的に鑑みれば、情報 (CALL) 教室の活用により地域言語の実践的運用能力の育成が期待できる。またメディア演習室には最新

のメディアコンテンツ制作機器を備えて、学生の社会に発信する能力を高めることに資することができる。書庫には言語文化教育研究センターが所蔵している資料を移管し、各地域の言語、文化、課題の考究の用に供する。さらに、学生自習室、学生ラウンジを設け、学生の自主的な学び、及び交流の場を提供する。

教員用の施設としては本学部教員用個人研究室を 56 室（平均 26 m²/室）設け、専任教員全員に個室を割り当てる。また学部長室（24 m²）、事務室（120 m² 但し他の事務室と共用スペース）、会議室（154 m²但し他の研究科等との共用）、書庫（2,580 m²但し他の研究科と共用）等を配置する。志高館の平面図は資料 9 に示す通りである。なお、講義、演習教室については 50 室（計約 3,140 m²）ある。

7 - 3 図書等の資料及び図書館の整備計画

本学部の教育・研究領域である地域研究、言語に関する図書は、下記の言語文化教育研究センターからの移管図書に多数含まれており、また学生の教育に資するために、図書館に 3,000 冊の本学部の教育研究領域の学生用図書、教科書、一般書を完成年度までに幅広く揃える。

学生用図書は授業教室に近い既設の中央図書館に収納し、学生の利用の便を図る。今出川図書館とラーネット記念図書館合計の床面積は 16,278 m²、閲覧座席数は 2,670 席、蔵書冊数は 797,246 冊である。

言語文化教育研究センターの図書は 105,294 冊を移管する。専門雑誌類は、基本的には学部の書庫に収納する。なお、専門雑誌類 305 タイトルは、今後できる限り電子ジャーナル化していく。電子ジャーナルは全学及び本学部で契約を行い 1,629 タイトルを購読する。このほか、年次計画で図書・雑誌を新たに揃える。完成年度には図書 113,554 冊となる見込みである。また、図書館や各学部・研究科研究室に所蔵されている図書・専門雑誌類も有効に利用する。本学部書庫は「志高館」地階に設置し、資料は教室・研究室等を共有する総合政策科学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、アメリカ研究所、国際教育インスティテュートのものと共に配架される。スケールメリットにより資料の質量を増し、教育・研究上の効果を高める。もちろんこれらの図書も希望する学生には、閲覧、貸し出しを行い、学部 3 コースの教育・研究を行う上で十分な図書・専門雑誌類を整備する。現在所蔵している雑誌、もしくはこれから整備する雑誌タイトルの概要を資料 10 に示す。

本学では図書館を中心に相談及びガイダンスの体制を充実させている。あわせて国立国会図書館、公共図書館、専門図書館や大学図書館の協同事業であるレファレンス協同データベース事業に参加して、レファレンス事例をデータベースに登録し、多様な情報を提供できる環境を設定する等、レファレンスサービスを強化している。本学部では、図書館と協同し、研究室関連スタッフと Web 上の図書サービス（検索システム利用）を通じて、書誌的事項の調査、参考文献の紹介、参考文献の所在及び利用手段の提示、専門的調査機関等についての情報提示、外部データベースによる情報検索方法の紹介等を行う。

8 . 入学者選抜の概要

8 - 1 アドミッション・ポリシー

グローバル地域文化学部は、本学の教育理念の一つである国際主義を推進し、学部で培った知見を十全に活用することにより国際社会の諸分野で活躍できる人材の育成を目指している。よって入学許諾の指針として以下のアドミッション・ポリシーを掲げる。

- 1) グローバル(全地球的)な視点から世界の地域文化・歴史・社会を捉え、個々の地域が抱える現代的諸問題を、広範な時間的・空間的関連性において理解しようとする者。
- 2) 上記視点に則って世界の地域文化を力動的に理解し、各地域における諸問題の本質を正しく把握するとともに、それらの解決に向けた弾力的な策の創出に意欲を持つ者。
- 3) 国際人として外国語の重要性を十分に認識し、一定以上の外国語能力を有する者。
- 4) 本学部の目的をよく理解し、学部カリキュラムを通じて研かれた外国語能力と地域文化の知見に基づき国際社会に貢献しようとする者。

このアドミッション・ポリシーに基づき、また関連分野への卒業後の進路を確保するため、本学部は、入学者数を絞って水準の高い受験生の獲得を目指す。また、ヨーロッパコース、アジア・太平洋コース、アメリカコースの各々において、それぞれの地域言語の実践的運用能力を育成するには、その言語を「話す、聞く、読む、書く」能力を十全に強化する必要があるため、少人数クラスを適切に配置し、密度の高い教育指導を行う。外国語能力は本学部にとって必須であり、1年次前期より、各地域言語(特に初修言語)別の集中学習を開始するために、コース別に募集する。

以上を総合的に勘案し、本学部・学科の入学定員 180 人のもとに 3 つのコースを設定し、各コースの募集人数を、ヨーロッパコース 70 人、アジア・太平洋コース 60 人、アメリカコース 50 人とする。

8 - 2 選抜方法

既存の各学部と同様に、一般選抜入学試験(全学部日程と学部個別日程)、推薦選抜入学試験、指定校制推薦入学試験、法人内諸学校推薦入学試験、外国人留学生入学試験、留学生別科生推薦入学試験、大学入試センター試験を利用する入学試験(平成 26 年度から実施)を実施する。以下に各コースの入学試験の種類と募集人数を記載する。

【ヨーロッパコース】

- (1) 一般選抜入学試験(全学部日程と学部個別日程)
平成 25 年度 45 人、平成 26 年度以降 43 人
- (2) 推薦選抜入学試験 7 人
- (3) 指定校制推薦入学試験 4 人
- (4) 法人内諸学校推薦入学試験 14 人
- (5) 外国人留学生入学試験 若干名
- (6) 大学入試センター試験を利用する入学試験(平成 26 年度から実施) 2 人

【アジア・太平洋コース】

- (1) 一般選抜入学試験（全学部日程と学部個別日程）
平成 25 年度 38 人、平成 26 年度以降 36 人
- (2) 推薦選抜入学試験 6 人
- (3) 指定校制推薦入学試験 3 人
- (4) 法人内諸学校推薦入学試験 12 人
- (5) 外国人留学生入学試験 若干名
- (6) 留学生別科生推薦入学試験 1 人
- (7) 大学入試センター試験を利用する入学試験（平成 26 年度から実施） 2 人

【アメリカコース】

- (1) 一般選抜入学試験（全学部日程と学部個別日程）
平成 25 年度 32 人、平成 26 年度以降 30 人
- (2) 推薦選抜入学試験 5 人
- (3) 指定校制推薦入学試験 3 人
- (4) 法人内諸学校推薦入学試験 10 人
- (5) 外国人留学生入学試験 若干名
- (6) 大学入試センター試験を利用する入学試験（平成 26 年度から実施） 2 人

各入学試験の出願資格、試験科目、選考方法は次のとおりである。

- (1) 一般選抜入学試験（全学部日程と学部個別日程）
文系型 3 教科入試（英語・国語・地理歴史または公民または数学）を行い、その学力試験の成績を基に合格者を決定する。
- (2) 推薦選抜入学試験
 - (ア) 推薦選抜入学試験
外国語能力に秀でた者を対象とした入学試験を実施する。各コースとも高等学校の全科目の評定平均値が 3.5 以上で、かつ全ての外国語の評定平均値が 4.1 以上であり、かつ下記 ~ のいずれかに該当することを出願条件とする。
 - TOEIC のスコアが 530 点以上
 - TOEFL iBT のスコアが 55 点以上または TOEFL PBT 480 点以上
 - 実用英語技能検定（英検）2 級以上合格
 - IELTS のスコアが 4.5 以上
 - ドイツ語技能検定試験 3 級以上、Start Deutsch 2 / Fit in Deutsch 2 (CEFR A2) 以上
 - 実用フランス語技能検定試験 3 級以上、または DELF A2 (CEFR A2) 以上
 - 中国語検定試験 3 級以上、または HSK4 級以上（2010 年 5 月以前）か口頭試験を除く新 HSK 3 級以上（2010 年 6 月以降）
 - スペイン語技能検定 4 級以上、または DELE A2 (CEFR A2) 以上
 - ロシア語能力検定試験 4 級以上

「ハングル」能力検定試験 3 級以上、または韓国語能力試験 3 級以上
第 1 次選考として書類選考、第 2 次選考として筆記試験（小論文）と日本語と外国語による口頭試問を実施し、総合的に合否を判定する。

(イ) 自己推薦（アスリート）入学試験

高等学校在学中に各種競技スポーツにおいて一定以上の成績をあげた者を対象とした入学試験を実施する。各コースとも、全国高等学校総合体育大会、全国高等学校選手権大会、全国高等学校選抜大会、国民体育大会等の全国大会に出場し、16 位以内の成績を残し、もしくはそれと同等以上の競技成績をあげたことを出願条件とする。

加えて、全科目の評定平均値が 3.0 以上で、かつ全ての外国語の評定平均値が 4.0 以上であり、かつ下記 ~ のいずれかの試験を受験し、そのスコア票、または合格証明書により外国語能力を証明することができることを出願条件とする。

TOEIC

TOEFL iBT

TOEFL PBT

実用英語技能検定（英検）

IELTS

ドイツ語技能検定試験

Start Deutsch / Fit in Deutsch

実用フランス語技能検定試験

DELF

中国語検定試験

HSK

スペイン語技能検定

DELE

ロシア語能力検定試験

「ハングル」能力検定試験

韓国語能力試験

第 1 次選考として書類選考、第 2 次選考として筆記試験（小論文）及び口頭試問を実施し、総合的に判断して合格者を選抜する。

(3) 指定校制推薦入学試験

一定の条件を満たした被推薦者に対して筆記試験（小論文）ならびに日本語と外国語による口頭試問を実施し、総合的に合否を判定する。各コースとも高等学校第 3 学年第 1 学期までの全科目の評定平均値が 3.0 以上で、かつ全ての外国語の評定平均値が 4.0 以上であり、かつ下記 ~ のいずれかに該当することを出願条件とする。

TOEIC のスコアが 500 点以上

TOEFL iBT のスコアが 45 点以上、または TOEFL PBT のスコアが 450 点以上

実用英語技能検定（英検）2 級以上合格

IELTS のスコアが 4.5 以上

ドイツ語技能検定試験 3 級以上、または Start Deutsch 2 / Fit in Deutsch 2
(CEFR A2) 以上

実用フランス語技能検定試験 3 級以上、または DELF A2 (CEFR A2) 以上
中国語検定試験 3 級以上、または HSK4 級以上 (2010 年 5 月以前) か口頭試験を
除く新 HSK3 級以上 (2010 年 6 月以降)

スペイン語技能検定 4 級以上、または DELE A2 (CEFR A2) 以上

ロシア語能力検定試験 4 級以上

「ハングル」能力検定試験 3 級以上、または韓国語能力試験 3 級以上

(4) 法人内諸学校推薦入学試験

一定の条件を満たした被推薦者に対して筆記試験 (小論文) と日本語と外国語による口頭試問を実施し合格者を決定する。各コースとも高等学校の全科目の評定平均値が 3.0 以上で、かつ全ての外国語の評定平均値が 4.0 以上であり、かつ下記 から のいずれかに該当することを出願条件とする。

TOEIC のスコアが 500 点以上

TOEFL iBT のスコアが 45 点以上、または TOEFL PBT のスコアが 450 点以上

IELTS のスコアが 4.5 以上

ドイツ語技能検定試験 3 級以上、または Start Deutsch 2 / Fit in Deutsch 2
(CEFR A2) 以上

実用フランス語技能検定試験 3 級以上、または DELF A2 (CEFR A2) 以上
中国語検定試験 3 級以上、または HSK4 級以上 (2010 年 5 月以前) か口頭試験を
除く新 HSK3 級以上 (2010 年 6 月以降)

スペイン語技能検定 4 級以上、または DELE A2 (CEFR A2) 以上

ロシア語能力検定試験 4 級以上

「ハングル」能力検定試験 3 級以上、または韓国語能力試験 3 級以上

(5) 外国人留学生入学試験

外国人を対象として、入学試験を実施する。出願に際し、日本留学生試験の「日本語」及び「総合科目」の受験、英語能力を証明する書類ならびに志望理由書の提出を求める。また学部独自試験として口頭試問を実施し、総合的に合否を判定する。

(6) 留学生別科生推薦入学試験

本学留学生別科修了見込みの者を対象とした入学試験を実施する。書類審査及び口頭試問を実施し、総合的に合否を判定する。

(7) 大学入試センター試験を利用する入学試験 (平成 26 年度から実施)

大学入試センター試験の外国語、国語、地理歴史または公民から 1 科目、数学または理科から 1 科目の 4 教科・4 科目の成績を基に合格者を決定する。

9 . 海外語学研修、インターンシップ

9 - 1 海外語学研修の具体的計画

本学では、現在、サマープログラム、スプリングプログラム、セメスタープログラムとして以下の海外大学に各 10 名～30 名参加のプログラムを実施しており、本学部学生にも積極的に履修させる。成績評価については、派遣先大学からの報告をもとに本学で行う。

ヨーク大学、ケンブリッジ大学（イギリス）

ディーキン大学、ホーソン・メルボルン英語学校（オーストラリア）

オークランド大学、ウェリントン・ビクトリア大学（ニュージーランド）

スタンフォード大学、カリフォルニア大学デービス校・アーバイン校、ハワイ大学（アメリカ）

ウィニペグ大学（カナダ）

ミュンヘン大学、マルティン・ルター大学、フライブルグ大学（ドイツ）

フランシュ＝コンテ大学、CAVILAM（フランス）

北京大学、復旦大学（中国）

サラマンカ大学（スペイン）

ラス・アメリカス大学（メキシコ）

サンクトペテルブルク経済商科大学（ロシア）

延世大学（韓国）

9 - 2 海外インターンシップの具体的計画

ヨーロッパコース、アジア・太平洋コース、アメリカコースの 3 コースの学生の海外インターンシップ受入れの承諾を大手旅行代理店の支店・現地法人で得ており、またその旅行代理店を通じて、本学部の海外インターンシップ受け入れ先を確保している。また、本学OBがロサンゼルス、上海で既に本学学生のためのインターンシップを企画、実施しており、その企画を活用し、本学OBが経営または勤務する海外企業、支店への受け入れ依頼も行っている。なお、単位を付与する正課科目の履修者として参加する学生への事前指導、事後の派遣企業からの勤務状況の報告は確実に言い、単位付与に支障のないように運営する。

10 . 2つ以上の校地における教育について

本学部は今出川校地を主たる校地として設定し、卒業に必要な科目は全て今出川校地において履修可能となるよう科目を開講する。ただし、選択科目C群として設定している全学共通教養教育科目の中には新町校地、京田辺校地のみで開講している科目も存在するため、これらの科目については学生の希望に基づき履修可とするが、前述の通り、今出川校地で開講する科目のみで卒業に必要となる科目は全て取得可能であるため、3校地間を往来する学生数はごく少数に留まることが予想される。なお、今出川校地から新町校地へは徒歩6分、京田辺校地への移動時間は55分である。カリキュラム上、今出川校地から京田辺校地へ移動する学生は想定しにくいだが、学生は自身の時間割を比較的自由に編成できるので、履修希望科目の関係で校地間を移動する場合には、京田辺校地で受講する時間の前後の時間に今出川校地での科目を登録しなければ移動は可能であり、時間割もそのようなケース

に配慮して編成することから、修学上特段の問題は生じない。

また一部の教員については京田辺校地で開講されている全学共通教養教育科目を担当するが、京田辺校地への出講は週1回程度に留まる見込みであり、学生の指導は今出川校地で十分行えるため、教育研究上、支障をきたすことはない。

11. 管理運営について

本学の管理運営の目的は、建学の精神と教育理念を具現化し、組織体として永続し成長し続けることである。この目的を達成するためには、組織体で保持する人材、施設・設備、資金、各種システム等の諸要素を効果的に組み合わせ、財政との調和を図りながら教育活動、研究活動、社会貢献活動を展開する必要がある。

管理運営に係る案件について、大学の最終意思決定機関は大学評議会であるが、大学及び学部双方が意思を通わせ、学部構成員の意見を適切に大学運営に反映できる意思決定システムとして、教授会を置くことが同志社大学学則第19条に規定されている。さらに、専門的に意見を収集するために各種委員会が設けられている。

本学部では「グローバル地域文化学部教授会規程」(資料11参照)を定めて、学部長の招集のもと、定例で毎月1回から2回の教授会を開催する。なお、緊急を要する案件が生じた場合等は、必要に応じて臨時教授会を開催する。教授会の構成員は専任教員(教授、准教授、助教)とする。教授会における審議事項は以下の通りである。

- (1) 教育研究に関する事項
- (2) 教育課程に関する事項
- (3) 教員の人事に関する事項
- (4) 学則、学部諸規程に関する事項
- (5) 学生の入学、退学、休学、卒業等に関する事項
- (6) 研究室の運営に関する事項
- (7) 大学長から諮問された事項
- (8) 学部長の選出に関する事項
- (9) 教授会の組織及び運営に関する事項
- (10) その他教授会が必要と認めた事項

教授会の成立要件は構成員の過半数の出席、ただし専任教員の人事に関する案件審議の場合は構成員の3分の2以上の出席とする。また議事は出席者の過半数の賛成により決定する。ただし専任教員の人事に関する事項については投票により出席者の3分の2以上の賛成により決定する。

教授会以外に、学部長、教務主任、教務〔国際〕主任、教務〔入学〕主任、研究主任、学生主任で構成する「主任会」を組織し、教授会における案件整理、審議資料作成、原案作成を行う。また、これに加えて、教授会の下に学部内の採用人件、昇任人件等を審議する「人事委員会」、組織的なFD活動を展開し教育活動の向上を図るための事項を審議する「ファカルティ・ディベロップメント委員会」、本学部の活動を組織的に点検・評価し、その結果を踏まえて改善策を検討する「自己点検・評価委員会」、学生からの授業改善要望等にきめ細やかに対応する「クレーム・コミッティ」を置く。さらに必要に応じてその他専門委員会を置く。

12. 自己点検・評価

本学では、教育研究水準の向上を図り社会的使命を達成するため、平成6年7月に「同志社大学自己点検・評価規程」を制定し、自己点検・評価の実施体制を整えた。そのもとで過去3回（平成8年、平成12年及び平成17年）にわたり全学的な自己点検・評価を実施し、「同志社大学自己点検・評価報告書」を作成（平成8年、平成12年は「教育研究自己点検・評価報告書」）し、平成17年度版を大学ホームページにて公開している。その後平成18年度には認証評価機関である大学基準協会の相互評価並びに認証評価を受け、同協会の基準に適合したものと認定された。この認証評価結果は「同志社大学に対する相互評価結果ならびに認証評価結果」として大学ホームページで公開している。

このような全学体制のもとに本学部においても、「グローバル地域文化学部自己点検・評価委員会規程」（資料12参照）を制定し、本学部各コースの専任教員の中から選任された委員により構成する「グローバル地域文化学部自己点検・評価委員会」を設置し、以下の項目について恒常的・定期的に点検・評価する。

- (1) 理念・目的に関する事項、人材養成の方針に関する事項
- (2) 教育活動に関する事項
- (3) 研究活動に関する事項
- (4) 学生生活に関する事項
- (5) 学術情報に関する事項
- (6) 大学間連携及び国際交流に関する事項
- (7) 施設・設備に関する事項
- (8) 社会との連携に関する事項
- (9) 管理運営に関する事項
- (10) 情報公開及び説明責任に関する事項
- (11) その他この委員会が必要と認める事項

自己点検・評価の結果については本学の実施体制に準じて学部自己点検・評価委員会において検討し、問題点については、関係委員会とも連携し、その都度速やかに対応する。これらの点検・評価を通じて、本学部の教育・研究の質的向上を図るとともに学部の将来計画に反映させる。なお、点検・評価の結果は、従来通り大学が発行する「同志社大学自己点検・評価報告書」にまとめ、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価を定期的に受ける。

13. 情報の公表

同志社大学では、従来から学生や社会に対して、大学の教育研究活動の内容を積極的に大学ホームページを通じて公表してきている。これは、学生に対しては、大学側が正確な情報を提供することにより、それに基づく健全な学修を期待するという考えによるものである。また、社会に対しては、本学が建学の精神に基づく教育研究活動を誠実に継続していることを説明し、地域に開かれた大学として受け入れてもらうことを目指している。さらに、本学の教育理念のひとつである国際主義を具現化するために、海外に向けても英語、中国語、韓国語で大学情報を発信している。

なお、学校教育法施行規則第172条の2に定められた以下の項目についても、いずれも

法令改正前から大学ホームページに掲載している。大学の基礎的な数値データについては、毎年大学基礎データ集を作成し、その内容を PDF ファイル化して公表し、数値情報以外の重要情報は、個別のページを作成して公表している。平成 24 年 4 月現在の各項目の掲載内容と掲載アドレスは以下のとおりである。

大学の教育研究上の目的に関すること

- ・大学の建学の精神と教育理念

ホーム > 大学紹介 > 概要：良心教育と教育理念

- ・大学全体の教育目標

ホーム > 大学紹介 > 概要：同志社大学教育目標と学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

- ・学部・学科、研究科・専攻の人材養成目的（学則に記載）

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/senmon.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ls.pdf>

教育研究上の基本組織に関すること

- ・教育研究上の基本組織（学則に記載）

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>

<http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>

- ・大学組織図

ホーム > 大学紹介 > 概要：組織図 > 大学組織図

- ・教育研究組織（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/1102.pdf

教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

- ・所属別教員数、専任教員年齢構成（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/4101.pdf

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/4102.pdf

- ・専任教員が保有する学位及び業績（研究者情報データベース）

<http://kenkyudb.doshisha.ac.jp/rd/html/japanese/index.php>

入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業または修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

- ・学部アドミッション・ポリシー

ホーム > 同志社大学で学びたい方 | 学部入試 > 入試情報：アドミッション・ポリシー

- ・研究科アドミッション・ポリシー

ホーム > 同志社大学で学びたい方 | 大学院 > アドミッション・ポリシー

- ・志願者・受験者・合格者・入学者数（大学基礎データ集）

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2211.pdf

http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2212.pdf

- http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2213.pdf
http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2214.pdf
http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2215.pdf
http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2216.pdf
http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2217.pdf
- ・ 収容定員・学生現員表（大学基礎データ集）
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2111.pdf
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2121.pdf
 - ・ 学部卒業生数、大学院における学位授与状況（大学基礎データ集）
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2401.pdf
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2405.pdf
 - ・ 学部・研究科別就職状況、卒業生進路状況一覧（大学基礎データ集）
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2721.pdf
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/2732.pdf
- 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業計画に関すること
- ・ 学部・学科、研究科・専攻の設置科目（学則に記載）
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/senmon.pdf>
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ls.pdf>
 - ・ 各科目の講義概要、授業方法、到達目標、授業計画、成績評価基準、テキスト、参考文献等（シラバスデータベース）
 - <http://syllabus.doshisha.ac.jp/>
- 学修の成果に係る評価及び卒業または修了の認定に当たっての基準に関すること
- ・ 成績評価方法について
 - ホーム > 在学生 > 授業・履修・試験：学業成績
 - ・ 科目毎の成績評価基準（シラバスデータベース）
 - <http://syllabus.doshisha.ac.jp/>
 - ・ 卒業または修了認定基準（学則に記載）
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/senmon.pdf>
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ls.pdf>
- 校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
- ・ 校地・校舎の概要、校舎配置図、校舎等建物概要、教室の設備、情報処理環境の状況（大基礎データ集）
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/4211.pdf
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/4214.pdf
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/4215.pdf
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/4221.pdf

- http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/4227.pdf
- ・図書館の案内
 - <http://www.doshisha.ac.jp/library/index.html>
 - ・学術情報の所有・利用状況（大学基礎データ集）
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/3401.pdf
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/3402.pdf
 - http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/basic_data/pdf2011/3403.pdf
 - ・情報教育環境の案内
 - <http://www.doshisha.ac.jp/it/index.html>
- 授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
- ・入学金、授業料、教育充実費及び実験実習料（学則に記載）
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/gakubu.pdf>
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ingakusoku.pdf>
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/senmon.pdf>
 - <http://www.doshisha.ac.jp/students/support/gakusokupdf/ls.pdf>
- 大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること
- ・学修支援システム DUET（正課教育支援）
 - <https://duet.doshisha.ac.jp/info/index.jsp>
 - ・課外活動の案内
 - ホーム > 在学生 > 学生支援：課外活動（クラブ・サークル）
 - ・障がい学生支援制度
 - <http://challenged.doshisha.ac.jp/>
 - ・学生支援センターの個別学生支援プログラム（S-cube のプログラム）
 - ホーム > 在学生 > 学生支援：S-cube のプログラム
 - ・奨学金制度、学費の延分納
 - ホーム > 在学生 > 学生支援：奨学金、学費延納・分納
 - ・アルバイト紹介
 - ホーム > 在学生 > 学生支援：アルバイト紹介
 - ・下宿・寮の案内
 - ホーム > 在学生 > 学生支援：下宿紹介・寮
 - ・保健センターの案内
 - ホーム > 大学紹介 > 施設利用案内：保健センター
 - ・カウンセリングセンターの案内
 - ホーム > 在学生 > 健康管理（心とからだ）：カウンセリング
 - ・キャリア形成支援・就職に関する情報提供
 - ホーム > キャリア形成支援・就職
- その他（教育上の目的に応じ学生が取得すべき知識及び能力に関する情報、学則等各種規程、設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況報告書、自己点検・評価報告書、認証評価の結果等）
- ・学部・学科、研究科・専攻の学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

- ホーム > 大学紹介 > 概要：同志社大学教育目標と学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針
- ・学則、大学院学則、専門職大学院学則、法科大学院学則、学部一般内規、大学院一般内規、学位規程
 - ホーム > 在学生 > 授業・履修・試験：学則・一般内規
- ・設置認可申請書（各学部・研究科のホームページに掲載）
 - http://globalcommunications.doshisha.ac.jp/news/post_19.html
 - <http://sports.doshisha.ac.jp/graduate/documents.php>
- ・設置計画履行状況報告書（各学部・研究科のホームページに掲載）
 - <http://globalcommunications.doshisha.ac.jp/news/201022.html>
 - <http://sports.doshisha.ac.jp/graduate/documents.php>
- ・自己点検・評価報告書
 - ホーム > 大学紹介 > 概要：大学評価 > 2005（平成 17）年度 自己点検・評価報告書
- ・認証評価の結果
 - <http://www.doshisha.ac.jp/information/outline/accredit/pdf/accredit01.pdf>

なお、誰もがこれらの情報を容易に参照することができるよう、大学ホームページのトップページに「同志社大学情報の公表」というバナーを設け、そこから、各公表情報へのリンクを集約した「同志社大学の情報の公表」のページにアクセスできるよう配慮している。

以上のほか、本学では、学生に対する情報公表用に、授業情報データベースを構築し、学修支援システムを介して、講義概要やシラバス、成績評価分布及び授業担当者による授業講評（授業全体、期末試験、授業評価アンケートの結果等に関する講評）等の授業に関する情報を提供している。さらに、授業評価アンケート結果や学生生活に関する情報も提供し、学生の学修活動の適正な環境づくりに寄与している。さらに、「One Purpose」と名づけた大学の広報誌に大学予算、決算、就職状況等を掲載し、父母に送付している。

また、研究者情報データベースを構築し、教員の教育研究活動をホームページ上で広く公開している。なお、このデータは独立行政法人科学技術振興機構へも提供している。さらに研究者情報の詳細をまとめた研究者紹介集を発行し、社会との連携を図っている。

本学部では、本学のステークホルダーとしての学生並びに保護者、社会に対して教育研究活動やその他の諸活動についての説明責任を果たすことが重要であると考え、学部の理念・目的、カリキュラム、専任教員のプロフィール・研究成果・教育活動、設置届出書、設置計画履行状況報告書等を掲載する独自のホームページを開設し、広く情報の提供・公開を行っていく。内容については、より学生の日常的な学修活動を支援するために随時拡充していく予定である。

14．授業内容・方法の改善を図るための組織的な取組

本学では、大学教育の充実と発展に寄与することを目的として教育開発センターを設置し、全学的な教育施策の企画・開発並びに教育活動の継続的な改善の推進と支援を行っている。教育開発センターが設置しているFD支援部会では、カリキュラムや履修等の全学的・制

度的な見直しや、教員の教育内容・授業方法の改善についての検討を行っている。また同センターに設置されている教育効果向上部会では、本学の学士課程全般にわたる教育の効果を調査・測定し、それを向上させるための方策を検討している。

授業の内容及び改善を図るための取組としては、科目毎の GPA 評価の分布や授業評価アンケートの集計結果等のホームページ上での公開が挙げられる。これにより、各教員は自分が担当する科目の成績評価と他の教員担当科目の評価を容易に比較したり、教員各自が自らの授業の客観評価を行うことが可能となるようにしている。加えて、教員の成績評価の客観性をより明確にするために、クレーム・コミッティ制度によって学生からのクレームに明確に対応できる体制を整えている。

本学部でも「グローバル地域文化学部 F D 委員会規程」(資料 13 参照)を制定し、「グローバル地域文化学部 F D 委員会」を設けて、教育開発センターと連携して前述の GPA 評価の分布や授業評価アンケートの公表内容と、教員の 1 年間の教育活動(教育内容・方法の工夫、作成した教科書・教材・参考書、教育方法・教育実践に関する発表、研究会への参加、カリキュラム運営、対外的に公表された研究成果、学会における活動状況、公共機関における社会的な活動状況等)を自己申告してもらう「教育活動実態調査」の内容を材料として現状を分析し、組織的な授業の内容・方法の改善の材料とする。

さらに、より効果的な F D 活動を行うために、新任教員研修会参加をはじめとする教員の学内外での F D 関係各種研究会、研修会への参加はもとより、学部独自にも研修会を企画、実施する予定である。

15 . 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

15 - 1 教育課程内の取組について

外国語能力に優れ、地域文化研究の専門知識、国際的視座を持ち、グローバルに展開する民間企業や諸機関に活躍する人材を養成するために、海外留学プログラムの参加を義務付ける。そのうち、正課科目として「海外インターンシップ」を設置し、海外での就業体験の機会を設け、グローバルに活躍できる職業人の育成を行う。

また、本学では、全学共通教養教育科目として、職業生活を中心にして、ライフプランニングから働く意識の醸成、人生観の養成までを扱う「キャリア形成支援科目」と、問題発見能力と課題解決能力を身に付けることができる「プロジェクト科目」が提供されている。本学部においては選択科目 C 群にこれらの科目を設置する。「キャリア形成支援科目」と「プロジェクト科目」から構成される「キャリア形成支援科目群」は、本学キャリアセンターと連携しつつ、全学共通教養教育科目からキャリア形成に関連する科目をピックアップして体系的に纏めた科目群であり、本学部では、1 年次から自分の人生を自分で選んでいける自治自立の精神を身に付けさせるために「キャリア形成支援科目群」の履修を強く推奨する。

15 - 2 教育課程外の取組について

本学部専任教員によるオフィス・アワー及び語学カウンセリングを活用し、社会的・職業的自立に関する指導を行うとともに、次項で述べるように本学キャリアセンターと連携して、1・2 年次生から社会で働くことの意味を多角的に考えるきっかけとなるように「キ

キャリア発見セミナー」を行う。また、学生が在学中に企業や自治体において就業体験を積むことにより、自分の将来設計を考える契機とすることを目的としたインターンシップも、低年次生から実施する。1・2年次生対象の1日インターンシップ、東京インターンシップから、主に3年次生を対象とした正課授業「キャリア形成とインターンシップ」へと、学生の発達段階に応じたインターンシップによるキャリア形成支援を実施する。

本学では、就職活動のバックアップについても、綿密な年間スケジュールを作成し、就職ガイダンスや各種セミナーを実施している。また、学生支援センターでは主に低年次の学生を対象に、「先輩に聞こう」と題して本学卒業の職業人を招いて各種職業の紹介を行い、学生の職業観形成を図っている。

15 - 3 適切な体制の整備について

本学は学生の社会的・職業的自立に関して、キャリアセンターを設け、全学体制で支援・指導に努めている。上述したバックアップ体制とともに学生との個別面談を実施し、各学生からの活動状況の報告や相談を受け、それに対して適切にアドバイスしている。企業経験豊かなキャリア・アドバイザーも配置し、本学で学んだ知識をどのように生かすか、社会でどのような自己実現をめざすか、一人ひとりの希望・特性にふさわしい就職実現をめざしてサポートを行っている。

また、同センターでは、情報システムを活用して就職活動を支援している。就職資料室では企業情報が自由に閲覧できるほか、情報機器オープン利用室では、日経テレコン等の企業情報を閲覧することができる。さらにキャリアセンターの独自情報を提供する Web 就職支援システム「e-career」によって、求人・採用試験情報を提供し、情報化時代に対応した就職活動を支援している。また、就職を支援するために、大阪と東京に「同志社大学大阪サテライト」と「同志社大学東京オフィス」を設けている。

このように添付したイメージ図（資料 14 参照）の通り、キャリアセンターが全学的なキャリア教育支援体制をとり、本学部では学部の特色を生かした教育課程内及び教育課程外のプログラムによるキャリア形成支援並びに就職に関する事項の支援を行うが、両者の間を学部就職委員を媒介として相互に連携を図ることによって、学生の社会的・職業的自立に関する支援体制を構築する。

以 上

グローバル地域文化学部 カリキュラム系統図

ヨーロッパコース

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修科目	共通科目/ コース別科目	グローバル地域文化論	グローバル・スタディーズ論	グローバル地域文化入門	グローバル地域文化の基礎				
	演習科目/ 卒業論文	グローバル地域文化導入セミナー		グローバル地域文化入門セミナー		グローバル地域文化発展セミナーI	グローバル地域文化発展セミナーII	グローバル地域文化専門セミナーI	グローバル地域文化専門セミナーII 卒業論文
選択必修科目A群 (グローバル・イシュー科目群)				グローバル・イシュー (グローバル化の世界史) グローバル・イシュー (社会開発論) グローバル・イシュー (越境する地域文化) グローバル・イシュー (シズンシップ論) (以上2・3・4前)		グローバル・イシュー (ジェンダーと地域文化) グローバル・イシュー (異文化理解と紛争の抑止) グローバル・イシュー (人間の安全保障論) グローバル・イシュー (地球規模課題とアフリカ) (以上2・3・4後)			
選択必修科目B群 (スタディ・アロード科目群)		サマープログラム (英語A/英語B/英語C) (以上1・2・3・4後) サマープログラム (ドイツ語A/ドイツ語B/フランス語/ロシア語) 他 中国語/スペイン語/ロシア語 スプリングプログラム (英語A/英語C/英語D/フランス語) 他 中国語/スペイン語 (以上2・3・4前) セメスタープログラム・英語I/セメスタープログラム・英語II/海外インターンシップ (以上2・3・4後) スプリングプログラム・ドイツ語/スタディ・ツアー (以上3・4前)							
選択必修科目C群 (外国語関係科目群)	英語	コミュニケーション・イングリッシュ1	コミュニケーション・イングリッシュ2	イングリッシュ・ワークショップ1/同3	イングリッシュ・ワークショップ2	言語文化研究1 (3・4前)		言語文化研究2 (3・4後)	
		アナリティカル・リーディング1	アナリティカル・リーディング2	イングリッシュ・セミナー1	イングリッシュ・セミナー2/同3	現代地域事情・上級講読 (英語圏) 1 (3・4前)		現代地域事情・上級講読 (英語圏) 2 (3・4後)	
		イングリッシュ・プラクティクム2 (1・2前)		イングリッシュ・プラクティクム1 (以上1・2後)		アカデミック・イングリッシュA プロフェッショナル・イングリッシュA (以上2・3・4前)		アカデミック・イングリッシュB プロフェッショナル・イングリッシュB (以上2・3・4後)	
	ドイツ語 フランス語 ロシア語	入門I	入門II	応用1/応用2	応用3/応用4	文化事情1/表現法1/言語文化原典演習1 現代地域事情・上級講読1 (以上3・4前)		文化事情2/表現法2/言語文化原典演習2 現代地域事情・上級講読2 (以上3・4後)	
		インテンスイブI	インテンスイブII	インテンスイブIII	インテンスイブIV	インテンスイブV (ロシア語以外)	インテンスイブVI (ロシア語以外)	インテンスイブVII (フランス語/中国語のみ)	インテンスイブVIII (フランス語/中国語のみ)
	中国語 スペイン語 ロシア語	会話初級1 (中国語2・3・4前/その他1・2・3・4前)		会話中級1 (中国語2・3・4前/その他1・2・3・4前)		会話上級1 (中国語2・3・4前/その他1・2・3・4前)		会話上級2 (中国語2・3・4後/その他1・2・3・4後)	
	インドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語1 (文法)	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語2 (文法)	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語3 (コミュニケーション)	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語4 (講読)	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語5 (講読)			
	イタリア語	イタリア語初級I	イタリア語初級II	イタリア語中級I	イタリア語中級II	地域文化理解のためのイタリア語2 (講読)		地域文化理解のためのイタリア語3 (講読)	
		地域文化理解のためのイタリア語1 (コミュニケーション)							
	フランス語 (カナダ)			地域文化理解のためのフランス語 (カナダ) 1 (講読)	地域文化理解のためのフランス語 (カナダ) 2 (コミュニケーション)				
選択科目A群 (地域文化研究科目群)	ヨーロッパ	(地域文化の形成)		ヨーロッパ地域文化の形成1 (1・2・3・4前)		ヨーロッパ地域文化の形成2 (1・2・3・4後)			
		(地域文化の多様性)		ヨーロッパ地域文化の多様性1 (1・2・3・4前)		ヨーロッパ地域文化の多様性2 (1・2・3・4後)			
				ヨーロッパ地域文化論1	ヨーロッパ地域文化論2	ヨーロッパ地域文化特論1	ヨーロッパ地域文化特論2	ヨーロッパ地域文化特論3 (以上3・4前)	ヨーロッパ地域文化特論4 (以上3・4後)
				ヨーロッパ言語・文化論1 (以上2・3・4前)	ヨーロッパ言語・文化論2 (以上2・3・4後)	ヨーロッパ地域文化特論5 (以上3・4前)	ヨーロッパ地域文化特論6 (以上3・4後)		
		(地域と地球規模の課題)		ヨーロッパの課題1	ヨーロッパの課題2	ヨーロッパの課題3 (以上2・3・4前)	ヨーロッパの課題4 (以上2・3・4後)	ヨーロッパの課題5	ヨーロッパの課題6 (以上3・4後)
	アジア・太平洋	(地域文化の形成)		アジア・太平洋地域文化の形成1 (1・2・3・4前)		アジア・太平洋地域文化の形成2 (1・2・3・4後)			
		(地域文化の多様性)		アジア・太平洋地域文化の多様性1 (1・2・3・4前)		アジア・太平洋地域文化の多様性2 (1・2・3・4後)			
				アジア・太平洋地域文化論1	アジア・太平洋地域文化論2	アジア・太平洋地域文化特論1	アジア・太平洋地域文化特論2 (以上3・4前)		
				アジア・太平洋言語・文化論1	アジア・太平洋言語・文化論2 (以上2・3・4後)	アジア・太平洋地域文化特論3 (以上3・4前)	アジア・太平洋地域文化特論4 (以上3・4後)		
		(地域と地球規模の課題)		アジア・太平洋の課題1	アジア・太平洋の課題2	アジア・太平洋の課題3 (以上2・3・4前)	アジア・太平洋の課題4 (以上2・3・4後)	アジア・太平洋の課題5	アジア・太平洋の課題6 (以上3・4後)
アメリカ	(地域文化の形成)		南北アメリカ地域文化の形成1 (1・2・3・4前)		南北アメリカ地域文化の形成2 (1・2・3・4後)				
	(地域文化の多様性)		南北アメリカ地域文化の多様性1 (1・2・3・4前)		南北アメリカ地域文化の多様性2 (1・2・3・4後)				
			南北アメリカ地域文化論1	南北アメリカ地域文化論2	南北アメリカ地域文化特論1 (3・4前)	南北アメリカ地域文化特論2 (3・4後)			
			南北アメリカ地域文化特論3 (以上2・3・4前)	南北アメリカ言語・文化論1	南北アメリカ地域文化特論4 (以上2・3・4後)	南北アメリカ地域文化特論5 (以上3・4前)	南北アメリカ地域文化特論6 (3・4後)	南北アメリカ地域文化特論7 (3・4後)	
	(地域と地球規模の課題)		南北アメリカの課題1	南北アメリカの課題2	南北アメリカの課題3 (以上2・3・4前)	南北アメリカの課題4 (以上2・3・4後)	南北アメリカの課題5 (3・4後)	南北アメリカの課題6 (3・4後)	
選択科目A群 (実践科目群)		発信スキル実践 (2・3・4前)		フィールドワーク (3・4前)					
選択科目B群 (地域文化研究科目群)	ヨーロッパ	ヨーロッパの思想史 ヨーロッパの社会史1 ヨーロッパの経済 ヨーロッパの経済史 (以上2・3・4前)		ヨーロッパの社会史2 EUの政治 (以上2・3・4後)		ヨーロッパの政治史 (3・4前)		ロシア・東ヨーロッパの政治 (3・4後)	
	アジア・太平洋	アジアの教育と社会1 (2・3・4前)		アジアの教育と社会2 東アジアの国際関係 (以上2・3・4後)		中国の政治 中国の経済 アセアンの経済 (以上3・4前)		南アジアの政治と社会 アジアの経済 韓国の経済 (以上3・4後)	
	アメリカ	アメリカ文化の歴史1 (2・3・4前)		アメリカ文化の歴史2 アメリカの経済 アメリカの経済史 アメリカの政治と外交 (以上2・3・4後)		ラテンアメリカの政治と社会 (3・4前)			
選択科目C群		関 科 目 ・ 全 共 通 教 育 科 目 ・ 他 科 目 ・ 同 社 科 目 ・ コ ン ・ シ ア ム 科 目							

グローバル地域文化学部 カリキュラム系統図

アジア・太平洋コース

		1年次		2年次		3年次		4年次		
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
必修科目	共通科目/ コース別科目	グローバル地域文化論	グローバル・スタディーズ論	グローバル地域文化入門	グローバル地域文化の基礎					
	演習科目/ 卒業論文	グローバル地域文化導入セミナー		グローバル地域文化入門セミナー		グローバル地域文化発展セミナーⅠ	グローバル地域文化発展セミナーⅡ	グローバル地域文化専門セミナーⅠ	グローバル地域文化専門セミナーⅡ	
選択必修科目A群 グローバル・イシュー科目群		グローバル・イシュー（グローバル化の世界史） グローバル・イシュー（社会開発論） グローバル・イシュー（越境する地域文化） グローバル・イシュー（シチズンシップ論）（以上2・3・4前）				グローバル・イシュー（ジェンダーと地域文化） グローバル・イシュー（異文化理解と紛争の抑止） グローバル・イシュー（人間の安全保障論） グローバル・イシュー（地球規模課題とアフリカ）（以上2・3・4後）				
選択必修科目B群 （スタディ・アプロード科目群）		サマープログラム（英語A/英語B/英語C）（以上1・2・3・4後） サマープログラム（中国語/ロシア語）他 ドイツ語A/ドイツ語B/フランス語/スペイン語/ロシア語 スプリングプログラム（英語A/英語C/英語D/中国語）他 フランス語/スペイン語（以上2・3・4前） セメスタープログラム・英語Ⅰ/セメスタープログラム・英語Ⅱ/海外インターンシップ（以上2・3・4後） スプリングプログラム・ドイツ語/スタディ・ツアー（以上3・4前）								
選択必修科目C群 （外国語関係科目群）	英語	コミュニケーション・イングリッシュ1	コミュニケーション・イングリッシュ2	イングリッシュ・ワークショップ1/同3	イングリッシュ・ワークショップ2	言語文化研究1（3・4前）		言語文化研究2（3・4後）		
		アナリティカル・リーディング1	アナリティカル・リーディング2	イングリッシュ・セミナー1	イングリッシュ・セミナー2/同3	現代地域事情・上級講読（英語圏）1（3・4前）		現代地域事情・上級講読（英語圏）2（3・4後）		
	イングリッシュ・プラクティクム2（1・2前）				プ・イングリッシュ・プラクティクム イングリッシュ・プラクティクム1（以上1・2後）					
					アカデミック・イングリッシュA プロフェッショナル・イングリッシュA（以上2・3・4前）		アカデミック・イングリッシュB プロフェッショナル・イングリッシュB（以上2・3・4後）			
	中国語 ロシア語	入門Ⅰ	入門Ⅱ	応用1/応用2	応用3/応用4	文化事情1/表現法1/言語文化原典演習1		文化事情2/表現法2/言語文化原典演習2		
		現代地域事情・上級講読1（以上3・4前）				現代地域事情・上級講読2（以上3・4後）				
	（ドイツ語） フランス語 スペイン語 ロシア語	インテンシヴⅠ	インテンシヴⅡ	インテンシヴⅢ	インテンシヴⅣ	インテンシヴⅤ （ロシア語以外）	インテンシヴⅥ （ロシア語以外）	インテンシヴⅦ （フランス語/中国語のみ）	インテンシヴⅧ （フランス語/中国語のみ）	
		会話初級1（中国語2・3・4前/その他1・2・3・4前）		会話中級1（中国語2・3・4前/その他1・2・3・4前）		会話上級1（中国語2・3・4前/その他1・2・3・4前）		会話上級2（中国語2・3・4後/その他1・2・3・4後）		
	会話初級2（中国語2・3・4後/その他1・2・3・4後）		会話中級2（中国語2・3・4後/その他1・2・3・4後）		会話上級2（中国語2・3・4後/その他1・2・3・4後）					
	インドネシア語/トルコ語/ホルガル語/アラビア語	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ホルガル語/アラビア語1（文法）	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ホルガル語/アラビア語2（文法）	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ホルガル語/アラビア語3（コミュニケーション）	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ホルガル語/アラビア語4（講読）	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ホルガル語/アラビア語5（講読）				
イタリア語	イタリア語初級Ⅰ	イタリア語初級Ⅱ	イタリア語中級Ⅰ	イタリア語中級Ⅱ						
	地域文化理解のためのイタリア語1（コミュニケーション）		地域文化理解のためのイタリア語2（講読）		地域文化理解のためのイタリア語3（講読）					
フランス語（カナダ）			地域文化理解のためのフランス語（カナダ）1（講読）	地域文化理解のためのフランス語（カナダ）2（コミュニケーション）						
選択科目A群 （地域文化研究科目群）	ヨーロッパ	（地域文化の形成）		ヨーロッパ地域文化の形成1（1・2・3・4前）		ヨーロッパ地域文化の形成2（1・2・3・4後）				
				ヨーロッパ地域文化形成論1（2・3・4前）		ヨーロッパ地域文化形成論2（2・3・4後）				
						ヨーロッパ地域文化形成特論1		ヨーロッパ地域文化形成特論2（3・4後）		
						ヨーロッパ地域文化形成特論3（以上3・4前）				
	（地域文化の多様性）		ヨーロッパ地域文化の多様性1（1・2・3・4前）		ヨーロッパ地域文化の多様性2（1・2・3・4後）					
			ヨーロッパ地域文化論1		ヨーロッパ地域文化論2					
			ヨーロッパ言語・文化論1（以上2・3・4前）		ヨーロッパ言語・文化論2					
					ヨーロッパ地域文化特論6（以上2・3・4後）					
					ヨーロッパ地域文化特論1		ヨーロッパ地域文化特論2			
				ヨーロッパ地域文化特論3		ヨーロッパ地域文化特論4（以上3・4後）				
				ヨーロッパ地域文化特論5（以上3・4前）						
（地域と地球規模の課題）		ヨーロッパの課題1		ヨーロッパの課題2						
		ヨーロッパの課題3（以上2・3・4前）		ヨーロッパの課題4（以上2・3・4後）						
				ヨーロッパの課題6（3・4前）		ヨーロッパの課題5				
				ヨーロッパの課題7（以上3・4後）						
アジア・太平洋	（地域文化の形成）		アジア・太平洋地域文化の形成1（1・2・3・4前）		アジア・太平洋地域文化の形成2（1・2・3・4後）					
			アジア・太平洋地域文化形成論1（2・3・4前）		アジア・太平洋地域文化形成論2（2・3・4後）					
					アジア・太平洋地域文化形成特論1		アジア・太平洋地域文化形成特論2（以上3・4前）			
	（地域文化の多様性）		アジア・太平洋地域文化の多様性1（1・2・3・4前）		アジア・太平洋地域文化の多様性2（1・2・3・4後）					
		アジア・太平洋地域文化論2		アジア・太平洋地域文化論1						
		アジア・太平洋言語・文化論1		アジア・太平洋言語・文化論2（以上2・3・4後）						
		アジア・太平洋地域文化特論5（以上2・3・4前）								
				アジア・太平洋地域文化特論1		アジア・太平洋地域文化特論2				
				アジア・太平洋地域文化特論3（以上3・4前）		アジア・太平洋地域文化特論4（以上3・4後）				
（地域と地球規模の課題）		アジア・太平洋の課題1		アジア・太平洋の課題2						
		アジア・太平洋の課題3（以上2・3・4前）		アジア・太平洋の課題4（以上2・3・4後）						
				アジア・太平洋の課題7（3・4前）		アジア・太平洋の課題5				
				アジア・太平洋の課題6（以上3・4後）						
アメリカ	（地域文化の形成）		南北アメリカ地域文化の形成1（1・2・3・4前）		南北アメリカ地域文化の形成2（1・2・3・4後）					
			南北アメリカ地域文化形成論2（2・3・4前）		南北アメリカ地域文化形成論1（2・3・4後）					
					南北アメリカ地域文化形成特論1（3・4前）		南北アメリカ地域文化形成特論2（3・4後）			
	（地域文化の多様性）		南北アメリカ地域文化の多様性2（1・2・3・4前）		南北アメリカ地域文化の多様性1（1・2・3・4後）					
		南北アメリカ地域文化論2		南北アメリカ地域文化論1						
		南北アメリカ地域文化特論5（以上2・3・4前）		南北アメリカ言語・文化論1						
				南北アメリカ地域文化特論4（以上2・3・4後）						
				南北アメリカ地域文化特論1		南北アメリカ地域文化特論3（3・4後）				
				南北アメリカ地域文化特論2（以上3・4前）						
（地域と地球規模の課題）		南北アメリカの課題1		南北アメリカの課題2						
		南北アメリカの課題4（以上2・3・4前）		南北アメリカの課題3（以上2・3・4後）						
				南北アメリカの課題6（3・4前）		南北アメリカの課題5（3・4後）				
選択科目A群 （実践科目群）		発信スキル実践（2・3・4前）				フィールドワーク（3・4前）				
選択科目B群 （地域文化研究科目群）	ヨーロッパ	ヨーロッパの思想史 ヨーロッパの社会史1 ヨーロッパの経済 ヨーロッパの経済史（以上2・3・4前）				ヨーロッパの社会史2 EUの政治（以上2・3・4後）				
	アジア・太平洋	アジアの教育と社会1（2・3・4前）				アジアの教育と社会2 東アジアの国際関係（以上2・3・4後）				
						ヨーロッパの政治史（3・4前）		ロシア・東ヨーロッパの政治（3・4後）		
アメリカ		アメリカ文化の歴史1（2・3・4前）				アメリカ文化の歴史2 アメリカの経済 アメリカの経済史 アメリカの政治と外交（以上2・3・4後）				
						ラテンアメリカの政治と社会（3・4前）				
選択科目C群	・ 関 科 目 ・ 全 共 通 教 育 科 目 ・ 他 科 目 ・ 同 社 科 目 ・ コ ン ・ シ ャ ム 科 目									

アメリカコース

		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
必修科目	共通科目/ コース別科目	グローバル地域文化論	グローバル・スタディーズ論	グローバル地域文化入門	グローバル地域文化の基礎				
	演習科目/ 卒業論文	グローバル地域文化導入セミナー		グローバル地域文化入門セミナー		グローバル地域文化発展セミナーI	グローバル地域文化発展セミナーII	グローバル地域文化専門セミナーI	グローバル地域文化専門セミナーII 卒業論文
選択必修科目A群 (グローバル・イシュー科目群)		グローバル・イシュー (グローバルイゼーションの世界史) グローバル・イシュー (社会開発論) グローバル・イシュー (越境する地域文化) グローバル・イシュー (シズンシップ論) (以上2・3・4前)				グローバル・イシュー (ジェンダーと地域文化) グローバル・イシュー (異文化理解と紛争の抑止) グローバル・イシュー (人間の安全保障論) グローバル・イシュー (地球規模課題とアフリカ) (以上2・3・4後)			
選択必修科目B群 (スタディ・アプロード科目群)		サマープログラム (英語A/英語B/英語C) (以上1・2・3・4後) サマープログラム (スペイン語) 他 ドイツ語A/ドイツ語B/フランス語/中国語/ロシア語/コリア語 スプリングプログラム (英語A/英語C/英語D/スペイン語) 他 フランス語/中国語 (以上2・3・4前) セメスタープログラム・英語I/セメスタープログラム・英語II/海外インターンシップ (以上2・3・4後) スプリングプログラム・ドイツ語/スタディ・ツアー (以上3・4前)							
選択必修科目C群 (外国語関係科目群)	英語	コミュニケーション・イングリッシュ1	コミュニケーション・イングリッシュ2	イングリッシュ・ワークショップ1/同3	イングリッシュ・ワークショップ2	言語文化研究1 (3・4前)		言語文化研究2 (3・4後)	
		アナリティカル・リーディング1	アナリティカル・リーディング2	イングリッシュ・セミナー1	イングリッシュ・セミナー2/同3	現代地域事情・上級講読 (英語圏) 1 (3・4前)		現代地域事情・上級講読 (英語圏) 2 (3・4後)	
		イングリッシュ・プラクティクム2 (1・2前)		イングリッシュ・プラクティクム1 (以上1・2後)					
	スペイン語	入門I	入門II	応用1/応用2	応用3/応用4	文化事情1/表現法1/言語文化原典演習1		文化事情2/表現法2/言語文化原典演習2	
		現代地域事情・上級講読1 (以上3・4前)		現代地域事情・上級講読2 (以上3・4後)					
	ドイツ語 フランス語 中国語 ロシア語 コリア語	インテンスイブI	インテンスイブII	インテンスイブIII	インテンスイブIV	インテンスイブV (ロシア語以外)	インテンスイブVI (ロシア語以外)	インテンスイブVII (フランス語/中国語のみ)	インテンスイブVIII (フランス語/中国語のみ)
		会話初級1 (中国語2・3・4前/その他1・2・3・4前)		会話中級1 (中国語2・3・4前/その他1・2・3・4前)		会話上級1 (中国語2・3・4前/その他1・2・3・4前)		会話上級2 (中国語2・3・4後/その他1・2・3・4後)	
	インドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語1 (文法)	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語2 (文法)	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語3 (コミュニケーション)	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語4 (講読)	地域文化理解のためのインドネシア語/トルコ語/ポルトガル語/アラビア語5 (講読)			
		イタリア語初級I	イタリア語初級II	イタリア語中級I	イタリア語中級II				
		地域文化理解のためのイタリア語1 (コミュニケーション)		地域文化理解のためのイタリア語2 (講読)		地域文化理解のためのイタリア語3 (講読)			
フランス語 (カナダ)	地域文化理解のためのフランス語 (カナダ) 1 (講読)		地域文化理解のためのフランス語 (カナダ) 2 (コミュニケーション)						
選択科目A群 (地域文化研究科目群)	ヨーロッパ	(地域文化の形成)		ヨーロッパ地域文化の形成1 (1・2・3・4前)		ヨーロッパ地域文化の形成2 (1・2・3・4後)			
		(地域文化の多様性)		ヨーロッパ地域文化の多様性1 (1・2・3・4前)		ヨーロッパ地域文化の多様性2 (1・2・3・4後)			
				ヨーロッパ地域文化論1		ヨーロッパ地域文化論2			
				ヨーロッパ言語・文化論1 (以上2・3・4前)		ヨーロッパ言語・文化論2 (以上2・3・4後)			
				ヨーロッパ地域文化特論1		ヨーロッパ地域文化特論2			
	アジア・太平洋	(地域文化の形成)		アジア・太平洋地域文化の形成1 (1・2・3・4前)		アジア・太平洋地域文化の形成2 (1・2・3・4後)			
		(地域文化の多様性)		アジア・太平洋地域文化の多様性1 (1・2・3・4前)		アジア・太平洋地域文化の多様性2 (1・2・3・4後)			
				アジア・太平洋地域文化論2		アジア・太平洋地域文化論1			
				アジア・太平洋言語・文化論1		アジア・太平洋言語・文化論2 (以上2・3・4後)			
				アジア・太平洋地域文化特論5 (以上2・3・4前)		アジア・太平洋地域文化特論3 (以上3・4前)		アジア・太平洋地域文化特論4 (以上3・4後)	
アメリカ	(地域文化の形成)		南北アメリカ地域文化の形成1 (1・2・3・4前)		南北アメリカ地域文化の形成2 (1・2・3・4後)				
	(地域文化の多様性)		南北アメリカ地域文化の多様性1 (1・2・3・4前)		南北アメリカ地域文化の多様性2 (1・2・3・4後)				
			南北アメリカ地域文化論2		南北アメリカ地域文化論1				
			南北アメリカ地域文化特論5 (以上2・3・4前)		南北アメリカ言語・文化論1		南北アメリカ地域文化特論4 (以上2・3・4後)		
			南北アメリカ地域文化特論1		南北アメリカ地域文化特論3 (3・4後)		南北アメリカ地域文化特論2 (以上3・4前)		
選択科目A群 (実践科目群)	発信スキル実践 (2・3・4前)		フィールドワーク (3・4前)						
選択科目B群 (地域文化研究科目群)	ヨーロッパ	ヨーロッパの思想史 ヨーロッパの社会史1 ヨーロッパの経済 ヨーロッパの経済史 (以上2・3・4前)		ヨーロッパの社会史2 EUの政治 (以上2・3・4後)		ヨーロッパの政治史 (3・4前)		ロシア・東ヨーロッパの政治 (3・4後)	
	アジア・太平洋	アジアの教育と社会1 (2・3・4前)		アジアの教育と社会2 東アジアの国際関係 (以上2・3・4後)		中国の政治 中国の経済 アセアンの経済 (以上3・4前)		南アジアの政治と社会 アジアの経済 韓国の経済 (以上3・4後)	
	アメリカ	アメリカ文化の歴史1 (2・3・4前)		アメリカ文化の歴史2 アメリカの経済 アメリカの経済史 アメリカの政治と外交 (以上2・3・4後)		ラテンアメリカの政治と社会 (3・4前)			
選択科目C群	・ 関 科 目 ・ 全 共 通 教 育 科 目 ・ 他 科 目 ・ 同 社 科 目 ・ コ ン ・ シ ア ム 科 目								

資料4

履修モデルケース（アメリカコース卒業後、国際交流を推進する地方自治体等、非営利事業の分野において活躍できる人材）

・各科目群の卒業要件

	必修科目	選択必修科目A群	選択必修科目B群	選択必修科目C群	選択科目A群	選択科目B群	選択科目C群	合計
卒業要件	28	6以上	1	24以上	20以上	—	16以上	124以上
モデルケース	28	10	1	30	31	2	22	124

・科目履修モデル表

	必修科目	選択必修科目A群	選択必修科目B群	選択必修科目C群	選択科目A群	選択科目B群	選択科目C群	履修単位数
1年次	(前期) グローバル地域文化論 グローバル地域文化導入セミナー			コミュニケーション・イングリッシュ1 アナリティカル・リーディング1 スペイン語インテンシブⅠ	南北アメリカ地域文化の形成1 南北アメリカ地域文化の多様性2		建学の精神とキリスト教 法学1 政治学1	19
	(後期) グローバル・スタディーズ論			コミュニケーション・イングリッシュ2 アナリティカル・リーディング2 プレ・イングリッシュ・プラクティクム スペイン語インテンシブⅡ	南北アメリカ地域文化の形成2 南北アメリカ地域文化の多様性1		キャリア開発の課題と方法 法学2 政治学2	21
2年次	(前期) グローバル地域文化入門	グローバル・イシュー(グローバリゼーションの世界史)		イングリッシュ・セミナー1 イングリッシュ・ワークショップ1 スペイン語インテンシブⅢ	南北アメリカの課題1 南北アメリカ地域文化特論5 発信スキル実践		国際教養基礎論1 倫理学(1)	18
	(後期) グローバル地域文化の基礎 グローバル地域文化入門セミナー	グローバル・イシュー(人間の安全保障論)		イングリッシュ・セミナー2 イングリッシュ・ワークショップ2 スペイン語インテンシブⅣ	ヨーロッパの課題2 南北アメリカ地域文化論1 南北アメリカの課題2		国際教養基礎論2 倫理学(2)	21
3年次	(前期) グローバル地域文化発展セミナーⅠ	グローバル・イシュー(越境する地域文化)	スプリングプログラム・スペイン語	言語文化原典演習(スペイン語)1	アジア・太平洋の課題1 南北アメリカ地域文化特論2 南北アメリカの課題6	ラテンアメリカの政治と社会		15
	(後期) グローバル地域文化発展セミナーⅡ	グローバル・イシュー(異文化理解と紛争の抑止)		言語文化原典演習(スペイン語)2	ヨーロッパの課題5 南北アメリカ地域文化形成特論2 南北アメリカの課題5		複合領域科目2	14
4年次	(前期) グローバル地域文化専門セミナーⅠ 卒業論文(通年科目)	グローバル・イシュー(シチズンシップ論)						8
	(後期) グローバル地域文化専門セミナーⅡ 卒業論文(通年科目)			現代地域事情・上級講読(スペイン語)2				8

資料5

履修モデルケース（アジア・太平洋コース卒業後、グローバルに展開する民間企業（中国に進出する企業等）において活躍できる人材）

・各科目群の卒業要件

	必修科目	選択必修科目A群	選択必修科目B群	選択必修科目C群	選択科目A群	選択科目B群	選択科目C群	合計
卒業要件	28	6以上	1	24以上	20以上	—	16以上	124以上
モデルケース	28	8	1	37	28	4	18	124

・科目履修モデル表

	必修科目	選択必修科目A群	選択必修科目B群	選択必修科目C群	選択科目A群	選択科目B群	選択科目C群	履修単位数
1年次	(前期) グローバル地域文化論 グローバル地域文化導入セミナー			コミュニケーション・イングリッシュ1 アナリティカル・リーディング1 中国語インテンシヴ I	アジア・太平洋地域文化の多様性1 アジア・太平洋地域文化の形成1		建学の精神とキリスト教 異文化間コミュニケーションA 倫理学(1)	19
	(後期) グローバル・スタディーズ論			コミュニケーション・イングリッシュ2 アナリティカル・リーディング2 中国語インテンシヴ II	アジア・太平洋地域文化の多様性2 アジア地域文化の形成2		キャリア開発の課題と方法 異文化間コミュニケーションB 倫理学(2)	17
2年次	(前期) グローバル地域文化入門	グローバル・イシュー（越境する地域文化）	サマープログラム・中国語(1単位分)	イングリッシュ・セミナー1 イングリッシュ・ワークショップ1 中国語インテンシヴIII サマープログラム・中国語(3単位分)	アジア・太平洋地域文化形成論1 アジア・太平洋の課題3		複合領域科目1	19
	(後期) グローバル地域文化の基礎 グローバル地域文化入門セミナー	グローバル・イシュー（異文化理解と紛争の抑止）		アカデミック・イングリッシュB 中国語インテンシヴIV	アジア・太平洋地域文化論1 アジア・太平洋の課題4	東アジアの国際関係	国際教養基礎論2	19
3年次	(前期) グローバル地域文化発展セミナー I	グローバル・イシュー（グローバルイノベーションの世界史）		現代地域事情・上級講読（英語圏）1 中国語インテンシヴV 現代地域事情・上級講読（中国語圏）1 中国語会話中級1	アジア・太平洋地域文化特論5 アジア・太平洋の課題7 ヨーロッパの課題3		キャリア形成とインターンシップ	19
	(後期) グローバル地域文化発展セミナー II	グローバル・イシュー（ジェンダーと地域文化）		中国語インテンシヴVI 中国語会話中級2	アジア・太平洋の課題2 アジア・太平洋の課題5 南北アメリカの課題2	アジアの経済		15
4年次	(前期) グローバル地域文化専門セミナー I 卒業論文（通年科目）			中国語インテンシヴVII				8
	(後期) グローバル地域文化専門セミナー II 卒業論文（通年科目）			中国語インテンシヴVII				8

資料6

履修モデルケース（ヨーロッパコースを卒業後、グローバルに展開する民間企業（旅行社、商社、文化交流関連企業等）において活躍できる人材）

	必修科目	選択必修科目A群	選択必修科目B群	選択必修科目C群	選択科目A群	選択科目B群	選択科目C群	合計
卒業要件	28	6以上	1	24以上	20以上	—	16以上	124以上
モデルケース	28	8	1	35	30	2	20	124

・科目履修モデル表

	必修科目	選択必修科目A群	選択必修科目B群	選択必修科目C群	選択科目A群	選択科目B群	選択科目C群	履修単位数
1年次	(前期) グローバル地域文化論 グローバル地域文化導入セミナー			コミュニケーション・イングリッシュ1 アナリティカル・リーディング1 ドイツ語インテンシブ I	ヨーロッパ地域文化の形成1		建学の精神とキリスト教 国際教養基礎論1 法学1 政治学1	19
	(後期) グローバル・スタディーズ論			コミュニケーション・イングリッシュ1 アナリティカル・リーディング1 ドイツ語インテンシブ II	ヨーロッパ地域文化の形成2 ヨーロッパ地域文化の多様性2		インターンシップ入門 国際教養基礎論2 法学2 政治学2	19
2年次	(前期) グローバル地域文化入門	グローバル・イシュー(グローバルゼーションの世界史)	サマープログラム・ドイツ語A(1単位分)	イングリッシュ・セミナー1 イングリッシュ・ワークショップ1 ドイツ語インテンシブIII サマープログラム・ドイツ語A(3単位分)	ヨーロッパ地域文化形成論1 ヨーロッパ地域文化論1 ヨーロッパの課題3		複合領域科目1	21
	(後期) グローバル地域文化の基礎 グローバル地域文化入門セミナー	グローバル・イシュー(異文化理解と紛争の抑止)		アカデミック・イングリッシュB ドイツ語インテンシブIV	ヨーロッパ地域文化形成論2 ヨーロッパ地域文化論2 ヨーロッパの課題4		キャリア開発の課題と方法	19
3年次	(前期) グローバル地域文化発展セミナー I	グローバル・イシュー(社会開発論)		現代地域事情・上級講読(英語圏)1 ドイツ語インテンシブV 現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏)1	ヨーロッパ地域文化特論5 ヨーロッパの課題6 フィールドワーク	ヨーロッパ社会史1		18
	(後期) グローバル地域文化発展セミナー II	グローバル・イシュー(ジェンダーと地域文化)		ドイツ語インテンシブVI 現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏)2	ヨーロッパ地域文化特論6 アジア・太平洋の課題4 南北アメリカの課題2			14
4年次	(前期) グローバル地域文化専門セミナー I 卒業論文(通年科目)			ドイツ語会話上級1				7
	(後期) グローバル地域文化専門セミナー II 卒業論文(通年科目)			ドイツ語会話上級2				7

資料7

履修モデルケース（アメリカコースを卒業後、グローバルな非営利組織(NPO)、ないし非政府組織(NGO)において活躍できる人材）

・各科目群の卒業要件

	必修科目	選択必修科目A群	選択必修科目B群	選択必修科目C群	選択科目A群	選択科目B群	選択科目C群	合計
卒業要件	28	6以上	1	24以上	20以上	—	16以上	124以上
モデルケース	28	8	1	31	34	4	18	124

・科目履修モデル表

	必修科目	選択必修科目A群	選択必修科目B群	選択必修科目C群	選択科目A群	選択科目B群	選択科目C群	履修単位数
1年次	(前期) グローバル地域文化論 グローバル地域文化導入セミナー			コミュニケーション・イングリッシュ1 アナリティカル・リーディング1 スペイン語インテンシブⅠ	ヨーロッパ地域文化の形成1 南北アメリカ地域文化の形成1 南北アメリカ地域文化の多様性2		建学の精神とキリスト教 法学1	19
	(後期) グローバル・スタディーズ論			コミュニケーション・イングリッシュ2 アナリティカル・リーディング2 イングリッシュ・プラクティクム1 スペイン語インテンシブⅡ	南北アメリカ地域文化の形成2 南北アメリカ地域文化の多様性1		キャリア開発の課題と方法 国際教養基礎論2 法学2	21
2年次	(前期) グローバル地域文化入門	グローバル・イシュー(社会開発論)		アカデミック・イングリッシュA プロフェッショナル・イングリッシュA スペイン語インテンシブⅢ	南北アメリカ地域文化論2 南北アメリカの課題1		地理学1	17
	(後期) グローバル地域文化の基礎 グローバル地域文化入門セミナー	グローバル・イシュー(ジェンダーと地域文化)	サマープログラム・英語A(1単位分)	スペイン語インテンシブⅣ サマープログラム・英語A(3単位分)	アジア・太平洋地域文化の多様性2 南北アメリカ言語・文化論1	東アジアの国際関係		19
3年次	(前期) グローバル地域文化発展セミナーⅠ	グローバル・イシュー(越境する地域文化)		現代地域事情・上級講読(英語圏)1	アジア・太平洋の課題1 南北アメリカ地域文化特論2 南北アメリカの課題4 南北アメリカの課題6		キャリア形成とインターンシップ 日本文化史概説(通年科目)	18
	(後期) グローバル地域文化発展セミナーⅡ	グローバル・イシュー(異文化理解と紛争の抑止)		現代地域事情・上級講読(英語圏)2	ヨーロッパの課題5 アジア・太平洋の課題4 南北アメリカ地域文化論1 南北アメリカ地域文化特論3	アメリカの政治と外交	日本文化史概説(通年科目)	18
4年次	(前期) グローバル地域文化専門セミナーⅠ 卒業論文(通年科目)							6
	(後期) グローバル地域文化専門セミナーⅡ 卒業論文(通年科目)							6

	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	18:15
	1		2		3		4		5	
	科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)	
月	【必修-1】 グローバル地域文化論 (伊藤(玄)、副島(一)、源馬(英))		【必修-2】 グローバル地域文化入門 (伊(慧)、阿部(範)、肥後本(芳)) 【選択A】 アジア・太平洋地域文化形成特論2 (岡本(正)) 南北アメリカ地域文化特論1 (遠藤(徹)) 【選択B】 ヨーロッパ社会史1 (服部(伸))		【選択A】 ヨーロッパ地域文化特論5 (亀谷(百)) アジア・太平洋の課題7 (小川原(宏)) 南北アメリカの課題6 (物部(ひ))		【選択必修A】 グローバル・イシュー (越境する地域文化) (菊池(恵)) 【選択A】 ヨーロッパの課題1 (水谷(智)、伊(慧)) 南北アメリカ地域文化の形成1 (肥後本(芳)) 【選択B】 アジアの教育と社会1 (宇治郷(毅))		【選択必修B】 サマープログラム・ドイツ語A (高木(繁)) サマープログラム・ロシア語 (松本(賢)) スプリングプログラム・英語D (遠藤(徹)) スプリングプログラム・中国語 (副島(一)) 【選択B】 中国の政治 (浅野(亮))	
火	【選択A】 ヨーロッパ地域文化形成論1 (宮寄(克)) アジア・太平洋地域文化形成論1 (竹内(理)) 【選択B】 ラテンアメリカの政治と社会 (宮地(隆))		【選択必修A】 グローバル・イシュー (シチズンシップ論) (GONON) 【選択A】 ヨーロッパ地域文化論1 (中井(敦)) 南北アメリカ地域文化の多様性2 (立林(良)) 【選択B】 アセアンの経済 (林田(秀))		【選択A】 ヨーロッパ地域文化の多様性1 (宮寄(克)) アジア・太平洋言語・文化論1 (張(軼)) 南北アメリカ地域文化形成特論1 (立林(良))		【選択A】 ヨーロッパの課題3 (GONON) アジア・太平洋地域文化論2 (高(榮)) 南北アメリカの課題1 (落合(明))		【選択必修B】 サマープログラム・フランス語 (宮寄(克)) サマープログラム・ロシア語 (高(榮)) スプリングプログラム・英語A (源馬(英)) スプリングプログラム・スペイン語 (稲本(健)) 【選択科目B】 ヨーロッパの経済史 (菅(一))	
水	【選択必修A】 グローバル・イシュー (グローバルイゼーションの世界史) (水谷(智)) 【選択A】 ヨーロッパ地域文化形成特論3 (松本(賢)) アジア・太平洋地域文化特論1 (小林(知))		【選択A】 ヨーロッパ地域文化特論3 (柱本(元)) アジア・太平洋地域文化特論3 (矢島(洋)) 【選択B】 アメリカ文化の歴史1 (山田(史))		【選択A】 ヨーロッパの課題6 (香坂(玲)) アジア・太平洋地域文化特論5 (本岡(拓)) 南北アメリカ地域文化論2 (柴田(修))		【選択A】 アジア・太平洋地域文化形成特論1 (丹羽(典)) 南北アメリカ地域文化形成論2 (加藤(隆)) 【選択B】 ヨーロッパの経済 (菅(一))		【選択B】 中国の経済 (辻(美))	
木	【選択A】 ヨーロッパ地域文化特論1 (GROSS) アジア・太平洋の課題1 (洪(宗))		【選択A】 ヨーロッパ地域文化形成特論1 (圓月(優)) アジア・太平洋地域文化の形成1 (向(正)) 南北アメリカの課題4 (宮地(隆))		【選択A】 ヨーロッパ言語・文化論1 (三原(芳)) アジア・太平洋地域文化の多様性1 (池田(巧)) 南北アメリカ地域文化特論5 (小林(致))		【選択必修A】 グローバル・イシュー (社会開発論) (UYAR) 【選択A】 ヨーロッパ地域文化の形成1 (石井(香)) アジア・太平洋の課題3 (加藤(千)) 南北アメリカ地域文化特論2 (和泉(真))		【選択必修B】 サマープログラム・ドイツ語B (三ツ木(道)) サマープログラム・中国語 (阿部(範)) サマープログラム・スペイン語 (立林(良)) スプリングプログラム・英語C (LARKING)	
金	【必修-1】 グローバル地域文化導入セミナー (高(榮)、圓月(優)、遠藤(徹)、 西納(春)、崎田(智)、三原(芳)、 向(正)、久野(聖)、伊藤(玄)) 【選択B】 ヨーロッパの政治史 (カ久(昌))		【選択必修B】 スタディ・ツアー (松本(賢)、錢(鷗)、和泉(真)) 【選択B】 ヨーロッパの思想史 (田端(信))		【必修-3】 グローバル地域文化発展セミナー I (清水(穰)、GONON、松本(賢)、 水谷(智)、石井(香)、伊(慧)、 菊池(恵)、錢(鷗)、阿部(範) 洪(宗)、竹内(理)、小川原(宏)、 UYAR、松久(玲)、肥後本(芳)、 和泉(真)、落合(明)、宮地(隆))		【必修-4】 グローバル地域文化専門セミナー I (清水(穰)、GONON、松本(賢)、 水谷(智)、石井(香)、伊(慧)、 菊池(恵)、錢(鷗)、阿部(範) 洪(宗)、竹内(理)、小川原(宏)、 UYAR、松久(玲)、肥後本(芳)、 和泉(真)、落合(明)、宮地(隆))		【必修-4】 卒業論文 (清水(穰)、GONON、松本(賢)、 水谷(智)、石井(香)、伊(慧)、 菊池(恵)、錢(鷗)、阿部(範) 洪(宗)、竹内(理)、小川原(宏)、 UYAR、松久(玲)、肥後本(芳)、 和泉(真)、落合(明)、宮地(隆))	
土	【選択A】 発信スキル実践 (西納(春))		【選択A】 フィールドワーク (久野(聖))		【選択必修B】 スプリングプログラム・フランス語 (亀谷(百))		【選択必修B】 スプリングプログラム・ドイツ語 (高木(繁))			

	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	18:15
	1		2		3		4		5	
	科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)	
月	言語文化研究1(井田(瑠)) ドイツ語インテンシヴⅢ(AURACHER) フランス語インテンシヴⅢ(ROUAUD) 中国語インテンシヴⅢ(阿部(範)) スペイン語インテンシヴⅢ(松久(玲)) ロシア語インテンシヴⅢ(MELNIKOVA) ロシア語インテンシヴⅢ(金(亨))		ドイツ語インテンシヴⅠ(高木(繁)) フランス語インテンシヴⅠ(中井(敦)) 中国語インテンシヴⅠ(副島(一)) スペイン語インテンシヴⅠ(MILLAN) ロシア語インテンシヴⅠ(松本(賢)) ロシア語インテンシヴⅠ(高(榮))		コミュニケーション・イングリッシュ1 (GATES, UYAR, LARKING, WARD, CHAN) イングリッシュ・セミナー1 (源馬(英), 崎田(智), 友田(奈), 細川(祐)) ドイツ語文化事情1(大木(清)) フランス語文化事情1(汐田(充)) 中国語文化事情1(向(正)) スペイン語文化事情1(DIEZ) ロシア語文化事情1(MELNIKOVA) ロシア語文化事情1(森(類))		プロフェッショナル・イングリッシュA(CROSS) ドイツ語インテンシヴⅤ(AURACHER) フランス語インテンシヴⅤ(GONON) 中国語インテンシヴⅤ(竹内(理)) スペイン語インテンシヴⅤ(PALOMINO) ロシア語インテンシヴⅤ(高(榮))		言語文化原典演習(ドイツ語)Ⅰ (小野(文)) 言語文化原典演習(フランス語)Ⅰ (中井(敦)) 言語文化原典演習(中国語)Ⅰ (塚田(亮)) 言語文化原典演習(スペイン語)Ⅰ (宮地(隆)) 言語文化原典演習(ロシア語)Ⅰ (乗松(亨)) 言語文化原典演習(ロシア語)Ⅰ (洪(宗))	
火	プロフェッショナル・イングリッシュA(CROSS) ドイツ語インテンシヴⅤ(広瀬(晶)) フランス語インテンシヴⅤ(GONON) 中国語インテンシヴⅤ(王(周)) スペイン語インテンシヴⅤ(PALOMINO) ロシア語インテンシヴⅤ(金(美))		現代地域事情・上級講読(英語圏)Ⅰ(圓月(優)) ドイツ語応用Ⅰ(薦田(奈)) フランス語応用Ⅰ(宮寄(克)) 中国語応用Ⅰ(柴(格)) スペイン語応用Ⅰ(NEGRON) ロシア語応用Ⅰ(乗松(亨)) ロシア語応用Ⅰ(酒匂(康))		ドイツ語インテンシヴⅢ(三ツ木(道)) フランス語インテンシヴⅢ(FAURE) 中国語インテンシヴⅢ(王(周)) スペイン語インテンシヴⅢ(MILLAN) ロシア語インテンシヴⅢ(乗松(亨)) ロシア語インテンシヴⅢ(小川原(宏))		ドイツ語インテンシヴⅠ(高木(繁)) フランス語インテンシヴⅠ(亀谷(百)) 中国語インテンシヴⅠ(黄(明)) スペイン語インテンシヴⅠ(立林(良)) ロシア語インテンシヴⅠ(松本(賢)) ロシア語インテンシヴⅠ(小川原(宏))		イングリッシュ・ワークショップ3(西納(春)) フランス語インテンシヴⅦ(亀谷(百)) 中国語インテンシヴⅦ(錢(鷗))	
水	イングリッシュ・プラクティクム2(PAVLOSKA) ドイツ語入門Ⅰ(大木(清)) フランス語入門Ⅰ(中井(敦)) 中国語入門Ⅰ(楠原(俊)) スペイン語入門Ⅰ(久野(聖)) ロシア語入門Ⅰ(乗松(亨)) ロシア語入門Ⅰ(油谷(幸))		アカデミック・イングリッシュA(CHAN) ドイツ語会話中級Ⅰ(AURACHER) フランス語会話中級Ⅰ(LAGONNELLE) 中国語会話中級Ⅰ(王(宜)) スペイン語会話中級Ⅰ(KIMMEL) ロシア語会話中級Ⅰ(FEDOROV) ロシア語会話中級Ⅰ(黄(鎮))		地域文化理解のためのインドネシア語Ⅰ(文法) (山本(春)) 地域文化理解のためのトルコ語Ⅰ(文法) (田村(う)) 地域文化理解のためのポルトガル語Ⅰ(文法) (住田(育)) 地域文化理解のためのアラビア語Ⅰ(文法) (四戸(潤)) 地域文化理解のためのフランス語(カナダ)Ⅰ(文法) (GRENIER)		地域文化理解のためのインドネシア語3(コミュニケーション) (山本(春)) 地域文化理解のためのポルトガル語3(コミュニケーション) (鳥居(玲)) 地域文化理解のためのアラビア語3(コミュニケーション) (NOUH) 地域文化理解のためのイタリア語3(講読) (洪江(陽))		地域文化理解のためのインドネシア語5(講読) (山本(春)) 地域文化理解のためのトルコ語5(講読) (IDIRIS) 地域文化理解のためのポルトガル語5(講読) (住田(育)) 地域文化理解のためのアラビア語5(講読) (竹田(敏))	
木	アカデミック・イングリッシュA(CHAN) ドイツ語インテンシヴⅠ(AURACHER) フランス語インテンシヴⅠ(PIORUNSKI) 中国語インテンシヴⅠ(副島(一)) スペイン語インテンシヴⅠ(立林(良)) ロシア語インテンシヴⅠ(MELNIKOVA) ロシア語インテンシヴⅠ(朴(恵))		ドイツ語インテンシヴⅢ(AURACHER) フランス語インテンシヴⅢ(伊藤(玄)) 中国語インテンシヴⅢ(王(周)) スペイン語インテンシヴⅢ(MILLAN) ロシア語インテンシヴⅢ(MELNIKOVA) ロシア語インテンシヴⅢ(金(美))		ドイツ語入門Ⅰ(伊狩(裕)) フランス語入門Ⅰ(伊藤(玄)) 中国語入門Ⅰ(郭(斐)) スペイン語入門Ⅰ(柴田(修)) ロシア語入門Ⅰ(松本(賢)) ロシア語入門Ⅰ(尹(秀))		ドイツ語表現法Ⅰ(AURACHER) フランス語表現法Ⅰ(亀谷(百)) 中国語表現法Ⅰ(藩(哲)) スペイン語表現法Ⅰ(MILLAN) ロシア語表現法Ⅰ(MELNIKOVA) ロシア語表現法Ⅰ(高(榮)) イタリア語初級Ⅰ(近藤(直))		現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏)Ⅰ (清水(稷)) 現代地域事情・上級講読(フランス語圏)Ⅰ (宮寄(克)) 現代地域事情・上級講読(中国語圏)Ⅰ (竹内(理)) 現代地域事情・上級講読(スペイン語圏)Ⅰ (久野(聖)) 現代地域事情・上級講読(ロシア語圏)Ⅰ (松本(賢)) 現代地域事情・上級講読(ロシア語圏)Ⅰ (須賀井(義)) イタリア語中級Ⅰ(近藤(直))	
金	イングリッシュ・ワークショップ1 (落合(明), 尹(慧), 竹熊(尚), 石原(堅)) ドイツ語会話上級Ⅰ(GILDENHARD) フランス語会話上級Ⅰ(ROUAUD) 中国語会話上級Ⅰ(張(軼)) スペイン語会話上級Ⅰ(NEGRON) ロシア語会話上級Ⅰ(MELNIKOVA) ロシア語会話上級Ⅰ(金(賢))		アナリティカル・リーディング1 (肥後本(芳), 三原(芳), 二村(太), 小林(七)) フランス語インテンシヴⅦ(亀谷(百)) 中国語インテンシヴⅦ(張(軼))		ドイツ語会話初級Ⅰ(AURACHER) フランス語会話初級Ⅰ(COLLOMBON) 中国語会話初級Ⅰ(王(嵐)) スペイン語会話初級Ⅰ(KIMMEL) ロシア語会話初級Ⅰ(MELNIKOVA) ロシア語会話初級Ⅰ(金(貞))		イングリッシュ・ワークショップ3(西納(春)) ドイツ語応用2(渡邊(紗)) フランス語応用2(伊藤(玄)) 中国語応用2(杉本(史)) スペイン語応用2(稲本(健)) ロシア語応用2(前田(恵)) ロシア語応用2(金(貞))			
土	イングリッシュ・プラクティクム2(PAVLOSKA)		地域文化理解のためのトルコ語3(コミュニケーション) (UYAR)							

	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	18:15
	1		2		3		4		5	
	科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)	
月	【免許・資格関連科目】 哲学概論1(田端(信)) 【全学共通教養教育科目】 働くということ(石田(光)、上田(眞)、三山(雅)、寺井(基))		【免許・資格関連科目】 西洋文化史概説1(米本(雅)) 【全学共通教養教育科目/日本語・日本文化教育科目】 人から人間への道(POOLE、WHITE) 日本の伝統と美(蔵重(伸))		【全学共通教養教育科目】 ラテンアメリカ文学(立林(良)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(読解B VII)(松本(秀)) 日本語1(読解B VIII)(平(弥))		【全学共通教養教育科目】 地球と宇宙の科学1(林田(明)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(読解A VI)(田中(美)) 日本語1(読解A VII)(荒井(美)) 日本語1(読解A VIII)(仲渡(理))		【全学共通教養教育科目】 スポーツの科学(中村(康)) 【自由科目】 教育実習の研究(児玉(祥)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(読解A IX)(バイエ(由)) 日本の文化1(山村(孝)、松本(公))	
火	【免許・資格関連科目】 倫理学概論1(工藤(和)) 【全学共通教養教育科目】 国際教養基礎論1(松本(賢)) 中国文学(副島(一))		【免許・資格関連科目】 東洋文化史概説1(堀井(優)) 【全学共通教養教育科目】 日本史1(松本(公)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本の歴史1(伏谷(聡)) 日本の芸術1(岸(文)、熊倉(一))		【全学共通教養教育科目】 環境と科学(山下(正)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(文法 VI)(竹島(奈)) 日本語1(文法 VIII)(伊藤(桜))		【全学共通教養教育科目】 商学(百合野(正)、内野(雅)、谷本(啓)、川満(直)、遠藤(敏)) 数学1(宮下(鋭)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(文章表現 VII)(北村(祥)) 日本語1(文章表現 VIII)(工藤(陽))		【免許・資格関連科目】 地理学1(二村(太)) 【全学共通教養教育科目】 建学の精神とキリスト教(水谷(誠)) 複合領域科目1(富井(富)、富岡(裕)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本の思想・宗教1(石黒(衛))	
水	【全学共通教養教育科目】 日本文学1(早川(久)) 生命の科学1(北元(敏)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(口頭表現A VIII)(徐(潤)) 日本語1(口頭表現A IX)(李(長))		【全学共通教養教育科目】 法学1(小久見(祥)) 物質の科学1(山口(良)) 【自由科目】 教職実践演習(中・高)(児玉(祥)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(口頭表現A VI)(松本(秀)) 日本語1(口頭表現A VII)(佐藤(紀))		【全学共通教養教育科目】 キリスト教の歴史と同志社(三木(メ)) 日本語1(米澤(昌)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(読解B IX)(徐(潤)) 日本の社会1(平野(敬))		【全学共通教養教育科目】 キリスト教とは何か1(三木(メ)) スタンフォード大学科目(LUDVIK) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(文章表現 VI)(原田(朋)) 日本語1(文章表現 IX)(李(長))		【免許・資格関連科目】 日本文化史概説(北(康)) 【全学共通教養教育科目】 哲学1(大鳥居(信)) 【全学共通教養教育科目/日本語・日本文化教育科目】 異文化コミュニケーションA(北林(利))	
木	【全学共通教養教育科目】 キリスト教会と現代文化(越川(弘)) 東洋史1(石野(一)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(読解B VI)(李(長))		【全学共通教養教育科目】 データサイエンス1(宮下(鋭)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(語彙 VII)(藤井(涼)) 日本語1(語彙 VIII)(伊藤(桜))		【免許・資格関連科目】 経済原論(西村(理)) 【全学共通教養教育科目】 論理学1(新(茂)) 科学史・科学論1(林(隆)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(語彙 VI)(竹島(奈)) 日本語1(語彙 IX)(佐尾(ち))		【免許・資格関連科目】 経済原論(久保(徳)) 【全学共通教養教育科目】 キャリア開発と学生生活(工藤(和)、森山(智)、神谷(雄)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(文法 VII)(米澤(昌)) 日本語1(文法 IX)(佐尾(ち))		【免許・資格関連科目】 地誌学(佐野(静)) 【全学共通教養教育科目】 倫理学1(林(克)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本の文学A(木谷(真))	
金	【免許・資格関連科目】 宗教学概論1(宮庄(哲)) 【全学共通教養教育科目】 キリスト教と人間1(越川(弘))		【全学共通教養教育科目】 多文化コミュニケーション学の基礎(山内(信)、長谷部(陽)) 考古学1(浜中(邦)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(口頭表現B VIII)(佐藤(紀)) 日本語1(口頭表現B IX)(後藤(多))		【全学共通教養教育科目】 政治学1(中谷(直)) 【全学共通教養教育科目/日本語・日本文化教育科目】 日本の伝統と芸能(中川(久)) 日本の伝統と芸術(清瀬(み))		【全学共通教養教育科目】 芸術学1(清瀬(み)) 先端領域科目1(井口(貢)、金武(創)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本語1(口頭表現B VI)(西島(順)) 日本語1(口頭表現B VII)(林田(節))		【全学共通教養教育科目】 宗教学1(近藤(剛)) 経済学1(近江(健)) 【日本語・日本文化教育科目】 世界の歴史1(堀井(優)、亀高(康))	
土	【全学共通教養教育科目】 プロジェクト科目1(金田(重)、上野(康))		【全学共通教養教育科目】 心理学1(田中(あ))							

集中科目:
 【全学共通教養教育科目】キャリア形成とインターンシップ(岡本(博)、浦坂(純)、秋篠(憲))
 【自由科目】教育実習A(児玉(祥))/教育実習B(児玉(祥))/教育実習C(児玉(祥))

	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	18:15
	1	2	3	4	5					
	科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)	
月										
火										
水										
木										
金										
土			【全学共通教養教育科目】 スポーツ・パフォーマンス1 (富居(富))							

	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	18:15
	1		2		3		4		5	
	科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)	
月	【必修-1】 グローバル・スタディーズ論 (宮地(隆))		【必修-2】 グローバル地域文化の基礎 (小野(文)、洪(宗)、立林(良)) 【選択A】 南北アメリカ地域文化特論3 (PAVLOSKA) 【選択B】 ヨーロッパ社会史2 (服部(伸)) 南アジアの政治と社会 (橋本(卓))		【選択A】 ヨーロッパ地域文化特論4 (乗松(亨)) アジア・太平洋の課題6 (竹内(理)) 南北アメリカの課題5 (佐藤(夏))		【選択必修A】 グローバル・イシュー (異文化理解と紛争の抑止)(内藤(正)) 【選択A】 ヨーロッパの課題2 (亀谷(百)) 南北アメリカ地域文化の形成2 (松久(玲)) 【選択B】 アジアの教育と社会2 (宇治郷(毅))		【選択必修B】 サマープログラム・英語A (鈴木(美)) サマープログラム・英語B (CROSS) 【選択B】 東アジアの国際関係 (浅野(亮))	
火	【選択A】 ヨーロッパ地域文化形成論2 (高木(繁)) アジア・太平洋地域文化形成論2 (小川原(宏)) 【選択B】 アメリカ政治と外交 (村田(晃))		【選択必修A】 グローバル・イシュー (ジェンダーと地域文化)(松久(玲)) 【選択A】 ヨーロッパ地域文化論2 (清水(穰)) 南北アメリカ地域文化の多様性1 (和泉(真)) 【選択B】 韓国の経済 (遠藤(敏))		【選択A】 ヨーロッパ地域文化の多様性2 (伊藤(玄)) アジア・太平洋言語・文化論2 (高(榮)) 南北アメリカ地域文化形成論1 (落合(明))		【選択A】 ヨーロッパの課題4 (尹(慧)) アジア・太平洋地域文化論1 (副島(一)) 南北アメリカの課題2 (源馬(英))		【選択必修B】 サマープログラム・英語B (圓月(優)) セメスタープログラム・英語 I (物部(ひ)) セメスタープログラム・英語 II (NEFF)	
水	【選択A】 ヨーロッパの課題7 (MELNIKOVA) アジア・太平洋地域文化特論2 (田辺(明)) 【選択B】 アメリカの経済 (角井(正))		【選択A】 ヨーロッパの課題5 (見原(礼)) アジア・太平洋地域文化特論4 (矢島(洋)) 【選択B】 アメリカ文化の歴史2 (山田(史))		【選択A】 ヨーロッパ地域文化特論6 (中川(聡)) アジア・太平洋の課題5 (北川(秀)) 南北アメリカ地域文化論1 (宮下(敬))		【選択必修A】 グローバル・イシュー (地球規模課題とアフリカ)(西(真)) 【選択A】 南北アメリカ地域文化形成特論2 (住田(育)) 【選択B】 アジアの経済 (西川(純))		【選択B】 EUの政治 (鷲江(義))	
木	【選択A】 ヨーロッパ地域文化特論2 (稲本(健)) アジア・太平洋の課題2 (UYAR)		【選択A】 ヨーロッパ地域文化形成特論2 (稲本(健)) アジア・太平洋地域文化の形成2 (物部(ひ)) 南北アメリカの課題3 (肥後本(芳))		【選択A】 ヨーロッパ言語・文化論2 (久野(聖)) アジア・太平洋地域文化の多様性2 (阿部(範)) 南北アメリカ地域文化特論4 (二村(太))		【選択必修A】 グローバル・イシュー (人間の安全保障論)(峯(陽)) 【選択A】 ヨーロッパ地域文化の形成2 (水谷(智)) アジア・太平洋の課題4 (小山田(英)) 南北アメリカ言語・文化論1 (WILKINS)		【選択必修B】 サマープログラム・英語C (南井(正)) セメスタープログラム・英語 I (三原(芳)) セメスタープログラム・英語 II (物部(ひ)) 【選択B】 アメリカの経済史 (角井(正))	
金	【選択B】 ロシア・東ヨーロッパの政治 (河原地(英))		【必修-2】 グローバル地域文化入門セミナー (清水(穰)、和泉(真)、尹(慧)、 小川原(宏)、宮地(隆)、UYAR)		【必修-3】 グローバル地域文化発展セミナー II (清水(穰)、GONON、松本(賢)、 水谷(智)、石井(香)、尹(慧)、 菊池(恵)、錢(鷗)、阿部(範) 洪(宗)、竹内(理)、小川原(宏)、 UYAR、松久(玲)、肥後本(芳)、 和泉(真)、落合(明)、宮地(隆))		【必修-4】 グローバル地域文化専門セミナー II (清水(穰)、GONON、松本(賢)、 水谷(智)、石井(香)、尹(慧)、 菊池(恵)、錢(鷗)、阿部(範) 洪(宗)、竹内(理)、小川原(宏)、 UYAR、松久(玲)、肥後本(芳)、 和泉(真)、落合(明)、宮地(隆))		【必修-4】 卒業論文 (清水(穰)、GONON、松本(賢)、 水谷(智)、石井(香)、尹(慧)、 菊池(恵)、錢(鷗)、阿部(範) 洪(宗)、竹内(理)、小川原(宏)、 UYAR、松久(玲)、肥後本(芳)、 和泉(真)、落合(明)、宮地(隆))	
土			【選択必修B】 サマープログラム・英語A (和泉(真))		【選択必修B】 海外インターンシップ (落合(明))		【選択必修B】 セメスタープログラム・英語 I (NEFF) セメスタープログラム・英語 II (三原(芳))			

	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	18:15
	1		2		3		4		5	
	科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)	
月	言語文化研究2(井田(瑠)) ドイツ語インテンスイヴⅣ(AURACHER) フランス語インテンスイヴⅣ(ROUAUD) 中国語インテンスイヴⅣ(阿部(範)) スペイン語インテンスイヴⅣ(松久(玲)) ロシア語インテンスイヴⅣ(MELNIKOVA) ロシア語インテンスイヴⅣ(金(亨))		ドイツ語インテンスイヴⅡ(高木(繁)) フランス語インテンスイヴⅡ(中井(敦)) 中国語インテンスイヴⅡ(副島(一)) スペイン語インテンスイヴⅡ(MILLAN) ロシア語インテンスイヴⅡ(松本(賢)) ロシア語インテンスイヴⅡ(高(榮))		コミュニケーション・イングリッシュ2 (GATES, UYAR, LARKING, WARD, CHAN) イングリッシュ・セミナー2 (源馬(英), 崎田(智), 友田(奈), 細川(祐)) ドイツ語文化事情2(大木(清)) フランス語文化事情2(汐田(充)) 中国語文化事情2(向(正)) スペイン語文化事情2(DIEZ) ロシア語文化事情2(MELNIKOVA) ロシア語文化事情2(森(類))		プロフェッショナル・イングリッシュB(GATES) ドイツ語インテンスイヴⅥ(AURACHER) フランス語インテンスイヴⅥ(GONON) 中国語インテンスイヴⅥ(竹内(理)) スペイン語インテンスイヴⅥ(PALOMINO) ロシア語インテンスイヴⅥ(高(榮))		言語文化原典演習(ドイツ語)2 (小野(文)) 言語文化原典演習(フランス語)2 (中井(敦)) 言語文化原典演習(中国語)2 (塚田(亮)) 言語文化原典演習(スペイン語)2 (宮地(隆)) 言語文化原典演習(ロシア語)2 (乗松(亨)) 言語文化原典演習(ロシア語)2 (洪(宗))	
火	プロフェッショナル・イングリッシュB(GATES) ドイツ語インテンスイヴⅥ(広瀬(晶)) フランス語インテンスイヴⅥ(GONON) 中国語インテンスイヴⅥ(王(周)) スペイン語インテンスイヴⅥ(PALOMINO) ロシア語インテンスイヴⅥ(金(美))		現代地域事情・上級講読(英語圏)2(圓月(優)) ドイツ語応用3(薦田(奈)) フランス語応用3(宮寄(克)) 中国語応用3(柴(格)) スペイン語応用3(NEGRON) ロシア語応用3(乗松(亨)) ロシア語応用3(酒匂(康))		ドイツ語インテンスイヴⅣ(三ツ木(道)) フランス語インテンスイヴⅣ(FAURE) 中国語インテンスイヴⅣ(王(周)) スペイン語インテンスイヴⅣ(MILLAN) ロシア語インテンスイヴⅣ(乗松(亨)) ロシア語インテンスイヴⅣ(小川原(宏))		ドイツ語インテンスイヴⅡ(高木(繁)) フランス語インテンスイヴⅡ(亀谷(百)) 中国語インテンスイヴⅡ(黄(明)) スペイン語インテンスイヴⅡ(立林(良)) ロシア語インテンスイヴⅡ(松本(賢)) ロシア語インテンスイヴⅡ(小川原(宏))		イングリッシュ・セミナー3(遠藤(徹)) フランス語インテンスイヴⅧ(亀谷(百)) 中国語インテンスイヴⅧ(錢(鷗))	
水	ブレ・イングリッシュ・プラクティクム(物部(ひ)) イングリッシュ・プラクティクム1(水谷(智)) ドイツ語入門Ⅱ(大木(清)) フランス語入門Ⅱ(中井(敦)) 中国語入門Ⅱ(楠原(俊)) スペイン語入門Ⅱ(久野(聖)) ロシア語入門Ⅱ(乗松(亨)) ロシア語入門Ⅱ(油谷(幸))		アカデミック・イングリッシュB(LARKING) ドイツ語会話中級2(AURACHER) フランス語会話中級2(LAGONNELLE) 中国語会話中級2(王(宜)) スペイン語会話中級2(KIMMEL) ロシア語会話中級2(FEDOROV) ロシア語会話中級2(黄(鎮))		地域文化理解のためのインドネシア語2(文法) (山本(春)) 地域文化理解のためのトルコ語2(文法) (IDIRIS) 地域文化理解のためのポルトガル語2(文法) (鳥居(玲)) 地域文化理解のためのアラビア語2(文法) (四戸(潤)) 地域文化理解のためのイタリア語1(コミュニケーション) (CAROLINA) 地域文化理解のためのフランス語(カナダ)2 (コミュニケーション)(GRENIER)		地域文化理解のためのインドネシア語4(講読) (山本(春)) 地域文化理解のためのポルトガル語4(講読) (鳥居(玲)) 地域文化理解のためのアラビア語4(講読) (竹田(敏)) 地域文化理解のためのイタリア語2(講読) (洪(陽))			
木	アカデミック・イングリッシュB(LARKING) ドイツ語インテンスイヴⅡ(AURACHER) フランス語インテンスイヴⅡ(PIORUNSKI) 中国語インテンスイヴⅡ(副島(一)) スペイン語インテンスイヴⅡ(立林(良)) ロシア語インテンスイヴⅡ(MELNIKOVA) ロシア語インテンスイヴⅡ(朴(恵))		ドイツ語インテンスイヴⅣ(AURACHER) フランス語インテンスイヴⅣ(伊藤(玄)) 中国語インテンスイヴⅣ(王(周)) スペイン語インテンスイヴⅣ(MILLAN) ロシア語インテンスイヴⅣ(MELNIKOVA) ロシア語インテンスイヴⅣ(金(美))		ドイツ語入門Ⅱ(伊狩(裕)) フランス語入門Ⅱ(伊藤(玄)) 中国語入門Ⅱ(郭(斐)) スペイン語入門Ⅱ(柴田(修)) ロシア語入門Ⅱ(松本(賢)) ロシア語入門Ⅱ(伊(秀))		ドイツ語表現法2(AURACHER) フランス語表現法2(亀谷(百)) 中国語表現法2(潘(哲)) スペイン語表現法2(MILLAN) ロシア語表現法2(MELNIKOVA) ロシア語表現法2(高(榮)) イタリア語初級Ⅱ(近藤(直))		現代地域事情・上級講読(ドイツ語圏)2 (清水(穰)) 現代地域事情・上級講読(フランス語圏)2 (宮寄(克)) 現代地域事情・上級講読(中国語圏)2 (竹内(理)) 現代地域事情・上級講読(スペイン語圏)2 (久野(聖)) 現代地域事情・上級講読(ロシア語圏)2 (松本(賢)) 現代地域事情・上級講読(ロシア語圏)2 (須賀井(義)) イタリア語中級Ⅱ(近藤(直))	
金	イングリッシュ・ワークショップ2 (落合(明), 尹(慧), 竹熊(尚), 石原(堅)) ドイツ語会話上級2(GILDENHARD) フランス語会話上級2(ROUAUD) 中国語会話上級2(張(軼)) スペイン語会話上級2(NEGRON) ロシア語会話上級2(MELNIKOVA) ロシア語会話上級2(金(賢))		アナリティカル・リーディング2 (肥後本(芳), 三原(芳), 二村(太), 小林(七)) フランス語インテンスイヴⅧ(亀谷(百)) 中国語インテンスイヴⅧ(張(軼))		ドイツ語会話初級2(AURACHER) フランス語会話初級2(COLLOMBON) 中国語会話初級2(王(嵐)) スペイン語会話初級2(KIMMEL) ロシア語会話初級2(MELNIKOVA) ロシア語会話初級2(金(貞))		イングリッシュ・セミナー3(遠藤(徹)) ドイツ語応用4(渡邊(紗)) フランス語応用4(伊藤(玄)) 中国語応用4(杉本(史)) スペイン語応用4(稲本(健)) ロシア語応用4(前田(恵)) ロシア語応用4(金(貞))			
土	ブレ・イングリッシュ・プラクティクム(物部(ひ)) イングリッシュ・プラクティクム1(水谷(智))		地域文化理解のためのトルコ語4(講読) (UYAR)							

	9:00	10:30	10:45	12:15	13:15	14:45	15:00	16:30	16:45	18:15
	1		2		3		4		5	
	科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)		科目名(担当者)	
月	【免許・資格関連科目】 哲学概論2(田端(信))		【免許・資格関連科目】 西洋文化史概説2(米本(雅))		【全学共通教養教育科目】 西洋史2(大谷(誠))		【全学共通教養教育科目】 AKP科目(GOTO) 地球と宇宙の科学2(林田(明))		【全学共通教養教育科目】 スポーツのマネジメント(二宮(浩))	
	【全学共通教養教育科目】 スペイン文学(稲本(健)) スポーツの心理(石倉(忠))		【全学共通教養教育科目】 西洋史1(大谷(誠)) <small>【全学共通教養教育科目/日本語・日本文化教育科目】</small> アイデンティティの社会格差 (POOLE, WHITE) 日本の伝統と文化(蔵重(伸))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(読解B VII)(平(弥)) 日本語2(読解B VIII)(徐(潤))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(読解A VI)(田中(美)) 日本語2(読解A VII)(荒井(美)) 日本語2(読解A VIII)(仲渡(理))		【自由科目】 教育実習の研究(児玉(祥))	
火	【免許・資格関連科目】 倫理学概論2(工藤(和))		【免許・資格関連科目】 東洋文化史概説2(堀井(優))		【全学共通教養教育科目】 AKP科目(GOTO)		【全学共通教養教育科目】 ジョイント・セミナー比較文化論 (PAVLOSKA, 加賀谷(真)) 数学2(宮下(鋭))		【免許・資格関連科目】 地理学2(香川(雄))	
	【全学共通教養教育科目】 国際教養基礎論2(副島(一)) ロシア文学(松本(賢))		【全学共通教養教育科目】 日本史2(松本(公)) 【日本語・日本文化教育科目】 日本の歴史2(佐古(和)) 日本の芸術2(岸(文)、中間(志))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(文法 VI)(竹島(奈)) 日本語2(文法 VIII)(伊藤(桜))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(文章表現 VII)(北村(梓)) 日本語2(文章表現 VIII)(工藤(陽))		【全学共通教養教育科目】 複合領域科目2(千田(二)、室田(武)) 、稲葉(稔)、藤原(耕)、和田(喜)、 盛満(正)、岸(基))	
水	【全学共通教養教育科目】 日本文学2(早川(久)) 生命の科学2(北元(敏))		【全学共通教養教育科目】 法学2(小久見(祥)) 物質の科学2(山口(良))		【全学共通教養教育科目】 KCJS科目(YOTSUKURA) 日本語2(米澤(昌))		【全学共通教養教育科目】 キリスト教とは何か2(三木(メ))		【免許・資格関連科目】 日本文化史概説(北(康))	
	【自由科目】 情報機器の操作(西納(春))		【自由科目】 教職実践演習(中・高)(児玉(祥))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(読解B IX)(李(長)) 日本の社会2(平野(敬))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(文章表現 VI)(原田(朋)) 日本語2(文章表現 IX)(三谷(閑))		【全学共通教養教育科目】 哲学2(大鳥居(信)) <small>【全学共通教養教育科目/日本語・日本文化教育科目】</small> 異文化コミュニケーションB(北林(利))	
木	【全学共通教養教育科目】 人物から学ぶキリスト教の歴史(越川(弘)) 東洋史2(石野(一))		【全学共通教養教育科目】 ジョイント・セミナー比較文化論 (PAVLOSKA, 加賀谷(真)) データサイエンス2(宮下(鋭))		【全学共通教養教育科目】 論理学2(新(茂)) 科学史・科学論2(林(隆)) 健康の科学(柳田(昌))		【免許・資格関連科目】 社会学概論(工藤(保))		【免許・資格関連科目】 社会学概論(工藤(保))	
	【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(読解B VI)(松本(秀))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(語彙 VII)(藤井(涼)) 日本語2(語彙 VIII)(伊藤(桜))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(語彙 VI)(竹島(奈)) 日本語2(語彙 IX)(徐(潤))		【全学共通教養教育科目】 キャリア開発の課題と方法 (竹廣(良)、神谷(雄))		【全学共通教養教育科目】 倫理学2(林(克))	
金	【免許・資格関連科目】 宗教学概論2(宮庄(哲))		【全学共通教養教育科目】 多文化コミュニケーション学の応用 (山内(信)、長谷部(陽)) 考古学2(角谷(江))		【全学共通教養教育科目】 KCJS科目(YOTSUKURA) 政治学2(中谷(直))		【全学共通教養教育科目】 芸術学2(岸(文)) 先端領域科目2 (山谷(清)、佐川(公)、西本(哲))		【全学共通教養教育科目】 宗教学2(近藤(剛)) 経済学2(近江(健))	
	【全学共通教養教育科目】 キリスト教と人間2(越川(弘)) <small>【全学共通教養教育科目/日本語・日本文化教育科目】</small> 日本の伝統と能楽(河村(晴))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(読解B VIII)(佐藤(紀)) 日本語2(読解B IX)(後藤(多))		【日本語・日本文化教育科目】 日本の伝統と人間形成(沖田(行))		【日本語・日本文化教育科目】 日本語2(文章表現 VII)(米澤(昌)) 日本語2(文章表現 IX)(佐尾(ち))		【日本語・日本文化教育科目】 世界の歴史2(服部(伸)、亀高(康))	
土	【全学共通教養教育科目】 プロジェクト科目2 (金田(重)、上野(康))		【全学共通教養教育科目】 心理学2(田中(あ))							

集中科目:
 【全学共通教養教育科目】インターンシップ入門(多田(実)、岡本(博)、岸(基))
 【自由科目】教育実習A(児玉(祥))/教育実習B(児玉(祥))/教育実習C(児玉(祥))

資料 9

1 (書類等の題名)

資料 9 同志社大学志高館

2 (説明)

「同志社大学グローバル地域文化学部設置の趣旨」11～12 ページに記述した、当該学部が教育研究の拠点とする「志高館」における教室・研究室等の配置及び面積についての資料として、志高館各階（地下 1 階から地上 3 階）平面図に当該学部が使用する教室・研究室等を色づけして示した。

資料10

グローバル地域文化学部 整備する学術雑誌のタイトル

和洋区分	タイトル
洋	Colloquia germanica
洋	Deutsche Sprache
洋	Deutsche Vierteljahrsschrift für Literaturwissenschaft und Geistesgeschichte
洋	Der Deutschunterricht
洋	Euphorion
洋	Fachdienst Germanistik
洋	Focus das moderne Nachricht magazin
洋	Germanisch-Romanische Monatsschrift
洋	Germanistik.
洋	Germanistische Linguistik.
洋	Historische Zeitschrift
洋	Kunstforum international
洋	Linguistic inquiry
洋	Linguistics
洋	Muttersprache
洋	Neue Rundschau
洋	Neue Zeitschrift für Musik
洋	New German Critique
洋	Österreich in Geschichte und Literatur
洋	Osteuropa
洋	Schnitt-Das Filmmagazin
洋	Sinn und Form
洋	Universitas
洋	Weimarer Beiträge
洋	Wespennest
洋	Wirkendes Wort
洋	Zeitschrift für Deutsche Philologie
洋	Zeitschrift für germanistische Linguistik
洋	Zielsprache Deutsch
洋	The Germanic Review
洋	Actes de la Recherche en Sciences Sociales
洋	L'Avant scène. Cinema
洋	L'Avant-scène. Théâtre
洋	Bibliothèque d'Humanisme et Renaissance
洋	Books
洋	Books Hors-série
洋	Cahiers Ferdinand de Saussure
洋	Cahiers du Cinéma
洋	Cahiers du Centre d'études Métriques
洋	Les Cahiers Naturalistes
洋	Cipango
洋	Connai ssance des arts
洋	Critique
洋	Le Débat
洋	Diogène
洋	Dix-huitième siècle
洋	XVIIe siècle
洋	Esprit : revue internationale
洋	Europe
洋	Français Moderne
洋	Genèses
和	比較文学研究
洋	L'Histoire
洋	Les collections de L'histoire

和洋区分	タイトル
洋	Langages
洋	Langue française
洋	Lire.
洋	Littérature
洋	Magazine Littéraire
洋	Le magazine Littéraire. Hors-série
洋	La Nouvelle Revue Française
洋	Seizième siècle(16e Siecle)
洋	Poétique
洋	Revue de Littérature Comparée
洋	Revue de Musicologie
洋	Revue d'histoire littéraire de la France
洋	Revue Française de Sociologie
洋	Revue Historique
洋	Romantisme
洋	Les Temps Modernes
洋	Vingtième siècle
洋	Yale French Studies
洋	Revue de Sythese
洋	文物
洋	文学評論
洋	文藝研究
洋	复印报刊资料. 文艺理论
洋	文藝理論研究
洋	文献
洋	文史
洋	复印报刊资料. 舞台艺术
洋	复印报刊资料. 高中语文教与学
洋	复印报刊资料. 初中语文教与学
洋	中國婦女
洋	中國學術
洋	中國现代文学研究从刊
洋	复印报刊资料. 中国现代,当代文学研究
洋	复印报刊资料. 中国现代史
和	中国關係論說資料 第1分冊 哲学・宗教
和	中国關係論說資料 第2分冊 文学・語学・芸術
洋	复印报刊资料. 中國近代史
洋	复印报刊资料. 中國古代,近代文学研究
洋	复印报刊资料. 中國共産党
洋	中國作家. 文学
洋	复印报刊资料. 中國政治
洋	中國青年
洋	中国社会科学院近代史研究所青年学术论坛
洋	中篇小说选刊
洋	中華文史論丛
洋	中華遺產
洋	中共党史研究
洋	傳記文學
洋	读书
洋	道家文化研究
洋	复印报刊资料. 影视艺术
洋	劇本
和	現代中國
洋	語文学习
洋	博覽群書
洋	复印报刊资料. 法理学・法史学
洋	法国汉学

和洋区分	タイトル
洋	报刊资料索引. 第4分册. 文化、教育
洋	报刊资料索引. 第5分册. 语言、文学、艺术
和	颯風
洋	人民文學
洋	人民教育
洋	十月
洋	花城
洋	經濟研究
洋	近代中国
洋	近代中國婦女史研究
洋	近代史研究
洋	近代史資料
洋	廣州文藝
洋	复印报刊资料. 高等教育
洋	求是
洋	明報月刊
洋	未名
洋	民国研究
洋	二十一世紀
洋	鴨綠江
洋	北京文学
洋	歷史研究
洋	复印报刊资料. 歷史学
洋	作家
洋	作品
洋	山西文学
洋	西北大学学报(哲学社会科学版)
洋	世界汉学
洋	社会科学战线
洋	上海文学
洋	詩刊
洋	新文学史料
洋	新闻与传播研究
洋	新华文摘
洋	新华月报
洋	小說月報
洋	小说界
洋	鍾山
洋	收穫
洋	复印报刊资料. 出版业
洋	争鳴
洋	大众電影
洋	大众电视
洋	天津文史資料選輯
洋	哲学动态
洋	当代
和	東亜
和	東方学報
洋	野草
洋	当代电影
洋	電影藝術
和	風絮
洋	Anales de la Literatura Española Contemporánea
洋	Boletin de la Real Academia Española
洋	Bulletin of Hispanic Studies
洋	Cambio 16
洋	Comprative Education Review

和洋区分	タイトル
洋	Criticon
洋	Cuadernos Americanos
洋	Cuadernos Hispanoamericanos
洋	Desarrollo Económico
洋	Debate Feminista
洋	Études Tsiganes
洋	Estudios Internacionales
洋	Estudios Interdisciplinarios de America latina y el Caribe
洋	Hispania
洋	Hispanic American Historical Review
洋	Hispanic Review
洋	Historia Mexicana
洋	Ínsula
洋	Nueva Revista de Filología Hispánica
洋	Nueva Sociedad
洋	Paginas
和	ラテンアメリカ研究年報
和	ラテンアメリカ・レポート
洋	Redes
洋	Revista de Filologia Española
洋	Revista de la CEPAL
洋	Revista Iberoamericana
洋	Revista Mexicana de politica exterior
洋	Revista Mexicana de Sociologia
洋	Revista de Occidente
洋	Romani Studies
和	スペイン史研究
洋	Todo es Historia
洋	International Review of Education
洋	Revista de Historia Económica
洋	Latin American Perspectives
洋	Библиофилы России : альманах
洋	Диаспоры
洋	Искусство кино
洋	Искусствознание
洋	Иностранная литература
洋	Исторические записки
洋	Итоги
洋	Japanese Slavic and East European Studies
洋	Киноведческие записки
洋	Коммерсант власть
洋	Мир русского слова
洋	Новое литературное обозрение
洋	Новый мир
洋	Новый журнал
洋	Огонёк
洋	Проблемы Дальнего Востока
洋	Родина : ежемесячный общественно-политический научно-популярный
洋	Русский язык за рубежом
洋	Сеанс
洋	Semiotika
洋	Slavic Review
洋	Вестник Московского университета. Серия 13, Востоковедение
和	ロシア月報
洋	Russian Literature

和洋区分	タイトル
和	朝鮮學報
洋	Language research
洋	한글
洋	한국사 시민 강좌
洋	국어학
洋	민족21
洋	일본공간
洋	역사비평
洋	역사문제연구
洋	역사와 현실
洋	창작과 비평
和	朝鮮史研究会論文集
和	現代詩手帖
和	異文化間教育
和	女性学年報
和	歴史学研究
和	西洋史学
和	史学雜誌
和	史林
洋	Journal of sociolinguistics
和	ACCCM年鑑
洋	Australian book review
洋	Australian literary studies
洋	Biography
洋	Chaucer review
洋	Cinema journal
洋	CR : the new centennial review
洋	Eighteenth century : theory and interpretation
洋	Eighteenth century life
洋	Fashion practice
洋	Fashion theory
洋	International journal on e-learning
洋	JALT journal
洋	Journal of advertising research
洋	Journal of educational multimedia and hypermedia
洋	Journal of interactive learning research
洋	Journal of the early Republic
洋	Lürzer's int'l archive
洋	Literature/film quarterly
洋	London magazine. N.S
洋	MLN : modern language notes
洋	Modernism/modernity
洋	Neuphilologische Mitteilungen
洋	PAJ
洋	Philological quarterly
洋	Poetica
洋	Reviews in American history
洋	Romance philology
洋	Sight and sound
洋	Smithsonian
洋	The American historical review
洋	The journal of Japanese studies
洋	The reel
洋	The Scriblerian and the Kit-Cats
洋	The William and Mary quarterly
洋	The yearbook of English studies
洋	Theatre record

和洋区分	タイトル
洋	Tokyo Art Directors Club annual
和	英語学論説資料
洋	Anglo-Saxon England
洋	Applied linguistics
洋	Cultural Studies
洋	Ethnic and racial studies
洋	European Journal of Cultural Studies
洋	Family relations : journal of applied family and child studies
洋	International Journal of Cultural Studies
洋	International journal of intercultural relations
洋	Journal of Asian studies
洋	Journal of Comparative Germanic Linguistics
洋	Journal of Family Theory and Review
洋	Journal of imperial and commonwealth history
洋	Journal of Language and Social Psychology
洋	Journal of Marriage and the Family
洋	Journal of Popular Culture
洋	Journal of pragmatics
洋	Language Testing.
洋	Studia neophilologica
洋	Studies in second language acquisition
洋	Tech trends
洋	Transactions of the philological society
洋	Reading research quarterly
洋	TESOL quarterly

同志社大学グローバル地域文化学部教授会規程（案）

2013年4月1日制定

（趣旨）

第1条 この規程は、同志社大学学則第19条の規定にもとづき、グローバル地域文化学部教授会（以下「教授会」という。）の組織と運営について必要な事項を定める。

（構成員）

第2条 教授会は、グローバル地域文化学部専任教員（任期付教員を除く）をもって構成する。

（審議事項）

第3条 教授会は、グローバル地域文化学部に関する次の事項を審議する。

- （1）教育研究に関する事項
- （2）教育課程に関する事項
- （3）教員の人事に関する事項
- （4）学則、学部諸規程に関する事項
- （5）学生の入学、退学、休学、卒業等に関する事項
- （6）研究室の運営に関する事項
- （7）大学長から諮問された事項
- （8）学部長の選出に関する事項
- （9）教授会の組織及び運営に関する事項
- （10）その他教授会が必要と認めた事項

（運営）

第4条 教授会は、学部長が招集し、議長となる。

2 学部長は、構成員の5分の1以上が連名により審議事項を付して教授会の開催要求をしたときは、すみやかに教授会を招集しなければならない。

（定足数及び議決）

第5条 教授会は、構成員の過半数の出席をもって成立する。ただし、専任教員の人事に関する教授会は3分の2以上の出席をもって成立するものとする。

2 議事は出席者の過半数の賛同によってこれを決定する。ただし、専任教員の人事に関する事項については投票により3分の2以上の賛成をもって決定するものとする。

3 前第1項の構成員には、在外研究、国内研究、休職・長期休業中の者を含まない。

4 議長は、構成員に直接利害関係のある事項を審議するときは、当該構成員の退席を求めることができる。

（主任会）

第6条 教授会は、第3条に関する議事運営を円滑におこなうため、主任会を置くことができる。

（各種委員会）

第7条 教授会は、必要に応じて各種委員会を設置することができる。

（改廃）

第8条 この規程の改廃は教授会においておこなう。

附 則

1. この規程は、2013年4月1日から施行する。

グローバル地域文化学部自己点検・評価委員会規程（案）

2013年4月1日制定

（目的）

第1条 この規程は、同志社大学自己点検・評価規程第6条に基づき、グローバル地域文化学部における教育研究活動等の自己点検・評価に関する事項を定める。

（任務）

第2条 グローバル地域文化学部自己点検・評価委員会（以下「委員会」という。）の任務は、以下のとおりとする。

- （1） 第9条に定める項目について、自己点検及び評価を行う。
- （2） 4年ごとに、「自己点検・評価報告書」を作成し、公表する。
- （3） 前項報告書作成の基礎資料とするため、年度ごとに活動実績の報告を各教員に求める。
- （4） 前項報告内容は、教育活動、対外的に公表された研究成果、学会における活動状況、公共機関における社会的な活動状況等とする。
- （5） グローバル地域文化学部長（以下「学部長」という。）の指示に従い、認証評価機関による認証評価を受けるために必要な作業を行う。

（委員会の構成）

第3条 委員会は、学部長、教務主任、教務〔国際〕主任、教務〔入学〕主任、学生主任、研究主任と学部長が任命するグローバル地域文化学部専任教員若干名をもって構成する。

2 学部長は、同志社社員以外の者を含む上記以外の者から特別委員を任命することができる。

（委員長及び副委員長）

第4条 委員会には、委員長及び副委員長各1名を置く。

- 2 委員長は、学部長がこれにあたる。
- 3 委員長は、副委員長を任命する。
- 4 委員長は、委員会を代表し、その業務を統括する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、その職務を代行する。

（特別委員の任務）

第5条 特別委員は、委員会の諸活動について、委員会と情報を共有する。

- 2 特別委員は、委員会に出席し、委員会の諸活動について説明を求め、意見を述べる。
- 3 特別委員は、講義を参観するなど、自己点検・評価のために必要な調査を行うことができる。

（グローバル地域文化学部各種委員会との関係）

第6条 委員長は、グローバル地域文化学部設置されている各種委員会に対して、必要に応じて報告を求めることができる。

(委員の任期)

第7条 学部長が任命する委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 特別委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 委員に欠員が生じたときは、補充するものとする。補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第8条 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

2 委員会は、必要に応じて随時開催する。

3 委員会は、委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(自己点検・評価項目)

第9条 委員会が行う自己点検・評価の項目は以下のとおりとする。

(1) 理念・目的に関する事項、人材養成の方針に関する事項

(2) 教育活動に関する事項

(3) 研究活動に関する事項

(4) 学生生活に関する事項

(5) 学術情報に関する事項

(6) 大学間連携・国際交流に関する事項

(7) 施設・設備に関する事項

(8) 社会との連携に関する事項

(9) 管理運営に関する事項

(10) 情報公開及び説明責任に関する事項

(11) その他この委員会が必要と認める事項

(雑則)

第10条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会が別に定める。

(事務)

第11条 委員会の事務は、グローバル地域文化学部事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、グローバル地域文化学部教授会が行う。

附 則

1 この規程は、2013年4月1日から施行する。

グローバル地域文化学部 F D 委員会規程（案）

2013年4月1日 制定

（趣旨）

第1条 この規程は、大学設置基準第25条の3及び同志社大学学則第8条の3の趣旨に基づき、ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）を組織的に推進するため、グローバル地域文化学部FD委員会（以下「委員会」という。）の目的、役割、組織等について定める。

（目的）

第2条 委員会は、FD活動（大学の理念・目標及び教育内容・方法についての組織的な研究・研修）の推進及び円滑な実施を図ることを目的とする。

（任務）

第3条 委員会は、前条に掲げる目的を達成するために、次の各号に掲げる業務を行う。

- （1） FD活動の基本方針の策定に関する事項
- （2） 教員の教授方法の開発及び改善に関する事項
- （3） 成績評価基準の明示を含む、シラバスの整備に関する事項
- （4） アセスメント（学生による授業評価、教育活動実態調査等）についての企画、立案、実施、結果の分析等及びそのフィードバックに関する事項
- （5） FDに係る研修会及び講習会の開催に関する事項
- （6） FD活動に関する情報収集及び提供
- （7） その他FDに関する事項で委員会が必要と認めた事項

（組織）

第4条 委員会は、学部長が任命する本学部専任教員5名をもって組織する。

2 委員長は、委員の中から学部長が任命する。

（委員の任期）

第5条 委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

2 委員に欠員が生じたときは、補充するものとする。補充された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（委員会の運営）

第6条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員会は、必要に応じ、随時開催する。

（雑則）

第7条 本規程に定めるもののほか、委員会の運営に必要な事項は、委員会において定める。

（事務）

第8条 委員会の事務は、グローバル地域文化学部事務室が行う。

（改廃）

第9条 本規程の改廃は、グローバル地域文化学部教授会において決定する。

附 則

1 本規程は、2013年4月1日から施行する。

資料 14 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制イメージ

